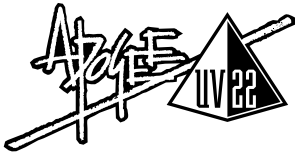




## PROFESSIONAL AUDIO CD RECORDER

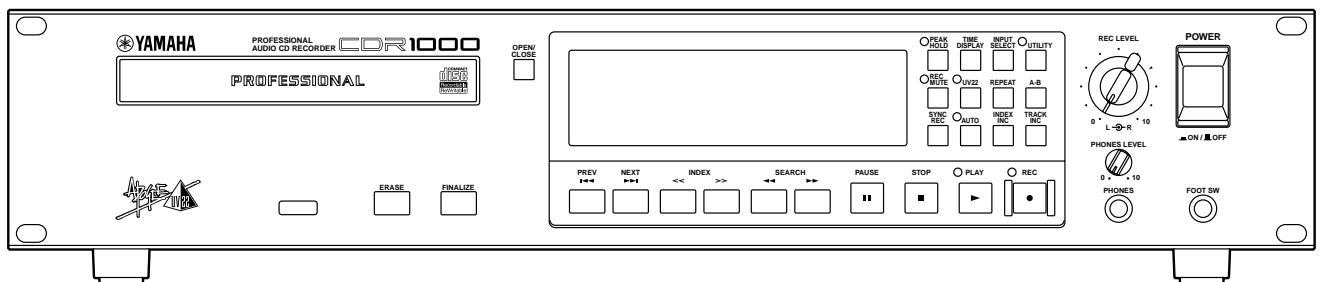
# CDR1000

## 取扱説明書



このたびはヤマハ プロフェッショナルオーディオ CD レコーダー CDR1000 をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。

CDR1000 の優れた機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。



この説明書をお読みになったあとは、保証書とともに保管してください。



# ！安全上のご注意

安全にお使いいただくため

安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みください。またお読みになったあと、いつでも見られるところに必ず保存してください。

絵表示 この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。









絵表示の例

- △：注意(危険・警告を含む)を促す事項
- ⊘：決しておこなってはいけない禁止事項
- ：必ずおこなっていただく強制事項



## 警告

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

設置されるとき	
	<p>この機器はAC100V専用です。それ以外の電源(AC200V、船舶の直流電源など)では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器に水が入ったり、機器がぬれたりしないようご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天・降雪時や海岸・水辺での使用はとくにご注意ください。</p> <p>電源コードの上に重い物をのせないでください。コードに傷が付くと、火災・感電の原因となります。とくに、敷物などで覆われたコードに気付かず、重い物を載せたり、コードが本機の下敷きになることのないよう、十分にご確認ください。</p>
	<p>雷が鳴りだしたら、早めに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
	<p>落雷のおそれがあるとき、電源プラグが接続されたままならば、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p>
使用中に異常が発生したとき	
	<p>断線・芯線の露出など、電源コードが傷んだら、販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	<p>万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	<p>煙が出る、変なにおいや音がするなどの異常がみとめられたときや、内部に水などの異物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、販売店にご連絡ください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	
ご使用になるとき	
	<p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因になります。</p>
	<p>この機器の裏ぶたやカバーは絶対に外さないでください。感電の原因になります。</p> <p>内部の点検・整備・修理が必要と思われるときは、販売店にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>

## ご注意

本機は業務用用途を目的として製造されています。本機を使用して、音楽著作物を録音使用する場合には、各著作権者の許諾を得る必要があります。権利者の許諾なく音楽著作物を使用し、権利者との間でトラブルが生じたとしても、弊社は一切の責任を負いません。

### 著作権について




このソフトウェアあるいは本取扱説明書のどの部分のいかなる方法での複製・配布も、ヤマハ株式会社の文書による承認がない限り、これを禁じます。

### 商標について

APOGEE、UV22、APOGEE UV22ロゴはアポジーエレクトロニクス社の登録商標です。その他記載の社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

## 注意

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。

設置されるとき	
	<p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ずプラグを持ってください。コードを引っ張ると、電源コードが傷ついて、火災・感電の原因となることがあります。濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。この機器の通風孔をふさがないでください。内部の温度上昇を防ぐため、この機器のケースの左および後部には通風孔が空けてあります。通風孔がふさがると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。とくに次のような使い方は避けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・機器をおお向けや横倒し、逆さまにする。</li><li>・本箱や押し入れなど、専用ラック以外の風通しの悪い狭いところに押し込める。</li><li>・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する。</li></ul>
	<p>オーディオラックなどに入れるときは、放熱をよくするために、壁や他の機器との間に隙間をとってください。隙間の大きさは、側面では10cm、背面では40cm、天面では30cm以上必要です。さらにラックの背面を開放するか、もしくはラックの背面に相当の通風孔を開けてください。放熱が不十分だと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p>
ご使用になるとき	
	<p>レーザー光線をのぞき込まないでください。レーザー光線が目に入ると視力障害を起こすことがあります。</p>

## ！ 使用上のご注意

正しくお使いいただくため

コネクタの極性について	他の電気機器への影響について
<p>XLRタイプコネクタのピン配列は次のとおりです。 1：シールド(GND)、2：ホット(+)、3：コールド(-) これは、IEC60268規格に基づいています。</p>	<p>この機器のデジタル回路から発生するわずかな雑音が、近くのラジオやテレビに入る可能性があります。そのようなときは、両者を少し離してください。</p>

## CD-R/RW ディスクのお取り扱いについて

ディスクのお取り扱いに関して、以下の事項をお守りください。

データの書き込みが正常に行われない、記録データが損なわれる、ドライブが故障する、などの障害が発生するおそれがあります。

ディスクを直射日光の当たる場所や高温の場所、湿度の高い場所に置かない。

ディスク表面に触らない。

ディスクを持つときは、ディスクのふちを持ってください。ディスク表面のほこりや汚れを取り除く。ほこりの除去にはエアダスターやクリーナーなどを使用してください。乾いた布などでディスクの表面を強くこするとディスクに傷がつくおそれがあります。

ディスクの指定の場所以外に文字を書いたり、ラベルを貼ったりしない。

ディスクを薬品や洗剤で拭かない。

ディスクを曲げたり、落としたりしない。

## データ消失などの責任について

本製品の使用に伴い、CD-RまたはCD-RWメディアに書き込んだデータの消失、破損などお客様に生じた逸失利益、特別な事情から生じた損害(損害発生につき弊社が予見、または予見し得た場合を含みます)及び第三者からお客様に対してなされた損害賠償請求に基づく損害については、一切責任を負いかねますので御了承ください。

万一メディアが使用できなくなった場合に関しましても、メディアの保証はいたしかねますので御了承ください。

## 目次

第1章 はじめに .....	1	UV22を使う .....	28
CDR1000のご紹介 .....	1	コピービットの設定 .....	28
この取扱説明書について .....	1	録音操作 .....	29
CDR1000の設置 .....	1	録音操作とボタンの働き .....	31
CDR1000の特長 .....	2	マニュアル操作でトラック番号を書き込む .....	32
予備知識 .....	4	マニュアル操作でインデックス番号を書き込む .....	33
第2章 各部の名称と機能 .....	6	オートレックスタート/オートトラックインク リメントを使う .....	34
フロントパネル .....	6	2秒間のミュートを挿入する(レックミュート)..	36
ディスプレイ .....	8	フェードインの設定 .....	38
ファンクションボタン .....	9	フェードアウトの設定 .....	39
リアパネル .....	11	CD・MD・DATソースとの同期録音 .....	40
リモートコントローラー .....	13	ディスクのファイナライズ .....	44
ブロック図 .....	14	ディスクの消去( CD-RWディスクのみ ).....	45
第3章 操作前の基礎 .....	15	第6章 その他の機能 .....	46
接続例 .....	15	AES/EBU出力端子のクロック周波数の選択 ....	46
電源コードの接続 .....	16	デジタルアウト( AES/EBU OUT、COAXIAL OUT ) 端子からの出力 .....	48
電源の入れ方 .....	16	フットスイッチの使い方 .....	49
輸送用保護パッドの取り出し .....	17	リモートコントローラーをオフにする .....	50
ディスクの挿入と取り出し .....	18	PARALLEL端子 .....	51
リモートコントローラーの操作 .....	19	故障かな? と思ったら .....	52
タイムディスプレイモードの設定 .....	19	エラーメッセージ .....	54
モニター .....	20	仕様 .....	55
メーターとピークホールド .....	20	寸法図 .....	57
レベルメーターが下がる速度の設定 .....	20	用語集 .....	58
第4章 再生 .....	21	索引 .....	59
ディスクの再生 .....	21		
一時停止 .....	21		
停止 .....	21		
再生操作とボタンの働き .....	22		
トラックを選択する .....	23		
トラックを数字ボタンで選択する( リモートコン トローラー操作 ).....	23		
インデックスを選択する .....	23		
再生音をサーチする .....	23		
リピート再生を使う .....	24		
第5章 録音 .....	25		
録音準備 .....	25		
入力ソースの選択 .....	25		
サンプリングレートコンバーターを使う .....	26		
インプットディレイを使う .....	27		

# 第1章 はじめに

## CDR1000のご紹介

このたびはヤマハプロフェッショナルオーディオCDレコーダーCDR1000をお買い求めいただき、ありがとうございました。

CDR1000はスタンドアローンの業務用レコーダーで、CD-R・CD-RWディスクに録音することができます。録音はブランクディスクに限らず、録音途中のものも可能です。再生はCD・CD-R・CD-RWディスクが可能ですが、CD-R・CD-RWディスクでは、ファイナライズしなくても再生できます。

CDR1000の概要は2ページの「CDR1000の特長」をお読みください。

## この取扱説明書について

この取扱説明書には、CDR1000を操作する上で必要な項目が全て含まれています。目次は本書の構成を把握するために、索引は必要な項目の検索にご利用ください。CDR1000に関連する用語集は58ページに記載しています。

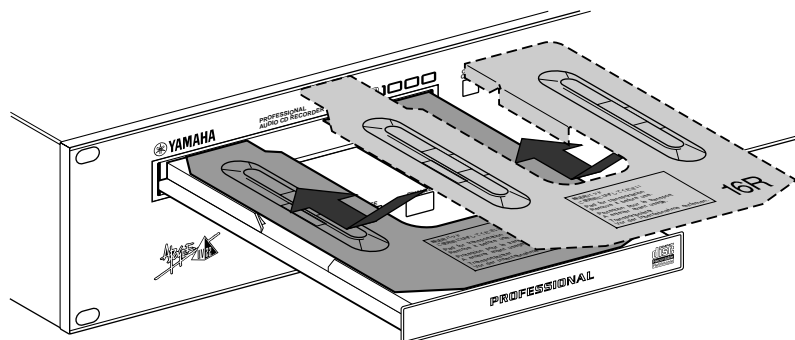
## CDR1000の設置

CDR1000を設置する際には、本書の最初に記載された重要注意事項に従って、安定した場所に置いてください。ラックにマウントすることもできます。

CDR1000をラックにマウントするときは、CDR1000の周囲に十分な空間を設けてください。また移動用ラックにマウントして使うときは、空冷ファンからの空気の流れを妨げないために、ケースの後ろを開放してください。また、CDR1000をパワーアンプのように熱くなる機器の上に置かないでください。

輸送用保護パッド:

移動時はディスクドライブ保護のため、輸送用保護パッドを必ずディスクトレイに装着してください。



詳しくは17ページの「輸送用保護パッドの取り出し」をお読みください。

## CDR1000の特長

### 録音メディア

- ・ CD-R( CDレコーダブルディスク )
- ・ CD-RW( CDリライタブルディスク )

### オーディオ特性

- ・ リニア20ビット・64倍オーバーサンプリングA/Dコンバーター
- ・ リニア20ビット・128倍オーバーサンプリングD/Aコンバーター
- ・ UV22スーパーCDエンコーディング搭載

### 多様な入出力

- ・ AES/EBU・S/PDIFデジタル入出力端子
- ・ バランス型XLRアナログ入出力端子( - 10dBV/ + 4dB切り替え )
- ・ ヘッドフォン端子

### 録音

- ・ 1枚のディスクに最大99トラック、1トラックに最大99インデックス録音可能
- ・ サンプリングレートコンバーターを内蔵( 30 ~ 50kHz )
- ・ 最大4.95秒のインプットディレイ機能搭載( 演奏が始まる瞬間を予測できないライブなどで確実に演奏の先頭を録音できます。 )
- ・ フェードイン、フェードアウト( 1 ~ 10秒 )
- ・ 2秒間のミュートを設定可能
- ・ オートトラックスタートとオートトラックインクリメント記録機能
- ・ マニュアルトラックインクリメント記録機能
- ・ マニュアルインデックスインクリメント記録機能
- ・ CD・MD・DAT( トラック、インデックス、スタートID、スキップID )との同期録音
- ・ CD-RWディスクのみ最終トラックの消去、ディスク消去、イニシャライズ
- ・ オートファイナライズ / オートアンファイナライズ機能

### 再生

- ・ CD-DA対応
- ・ CD-R・CD-RWディスクを再生可能
- ・ ワントラックリピート、オールリピート、A-Bリピート機能
- ・ AES/EBU出力は外部ワードクロックに同期可能

### 頭出し

- ・ NEXT/PREVキーでトラックの頭出し可能
- ・ INDEXキーでインデックスの頭出し可能
- ・ 早送り、早戻し再生
- ・ リモートコントローラーでトラック番号をダイレクトに指定可能

### ディスプレイ

- ・ 大型の蛍光表示管を搭載
- ・ トラック、インデックスの番号表示
- ・ ピークホールド付き16セグメントレベルメーター
- ・ 経過時間、残り時間、トータル経過時間を選択表示

### リモートコントロール

- ・ ワイヤレスリモートコントローラーでの操作が可能
- ・ 9ピンパラレルインターフェイス装備
- ・ フットスイッチ(オプション)に対応

### その他

- ・ コピービット設定可能
- ・ 複数台のCDR1000をデジタル接続可能
- ・ 2Uラックにマウント可能

## 予備知識

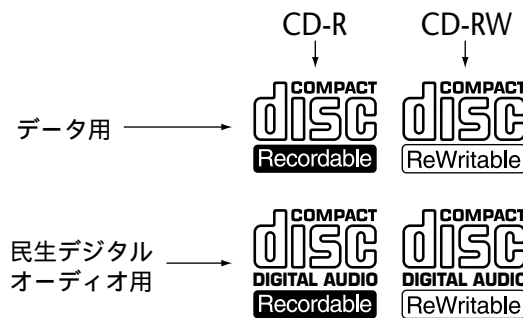
ここではCDR1000をより理解していただくための予備知識を記載しています。

### 再生

CDR1000は一般のCD・CD-R・CD-RWディスクが再生できます。CD-RディスクやCD-RWディスクは、ファイナライズしていなくても再生できます。マルチセッションで記録されたディスクは第1セッションのみ再生できます。

### 録音

CDR1000は、次のロゴマークが記載されているディスクに録音できます。



CDR1000は1枚のディスクに99のトラック、各トラックごとに99のインデックスまで記録することができます。トラックの最短録音時間は4秒なので録音開始から4秒未満で録音を停止してもトラックの長さは4秒になります。

### OPC

CDR1000はファイナライズされていないCD-RディスクやCD-RWディスクを挿入すると、録音に最適なレーザー出力を決定するためのOPC (Optimum Power Control) を毎回行い、その間ディスプレイに“ OPC ”と表示します。他の操作は、OPCが終了してから行ってください。

ファイナライズされていないCD-Rディスクに、OPCが94回行われると自動的にファイナライズされます。CDR1000に、OPCを95回以上したファイナライズされていないCD-Rディスクを挿入すると、“ OPC Over ”と表示され、録音できなくなったことを知らせます。

必要なとき以外は、ファイナライズされていないCD-Rディスクをセットしないことをお勧めします。

### TOC & PMA

一般のCDのTOCエリアには最大トラック数、トータル時間、各トラックの開始時間などが記録されていますが、CD-R・CD-RWディスクでは全ての録音が終わってから最終的なTOC情報をディスクのTOCエリアに記録します。作業中のTOC情報は、ディスクのPMA (Program Memory Area) に一時的に記録されます。TOC情報をPMAに記録している間は“ WAIT ”と表示されます。

PMAへ記録中にCDR1000の電源を誤操作などで切ってしまうようご注意ください。

## ファイナライズ

ファイナライズとは、一般のCDプレーヤーで再生できるように最終的なTOC情報をディスクのTOCエリアに記録することです。

ファイナライズしていないCD-Rディスクは、他のCD-Rレコーダーで再生できますが、一般のCDプレーヤーで再生できるのは、ファイナライズしたCD-Rだけです。ファイナライズされたCD-Rディスクへの追加録音はできません。

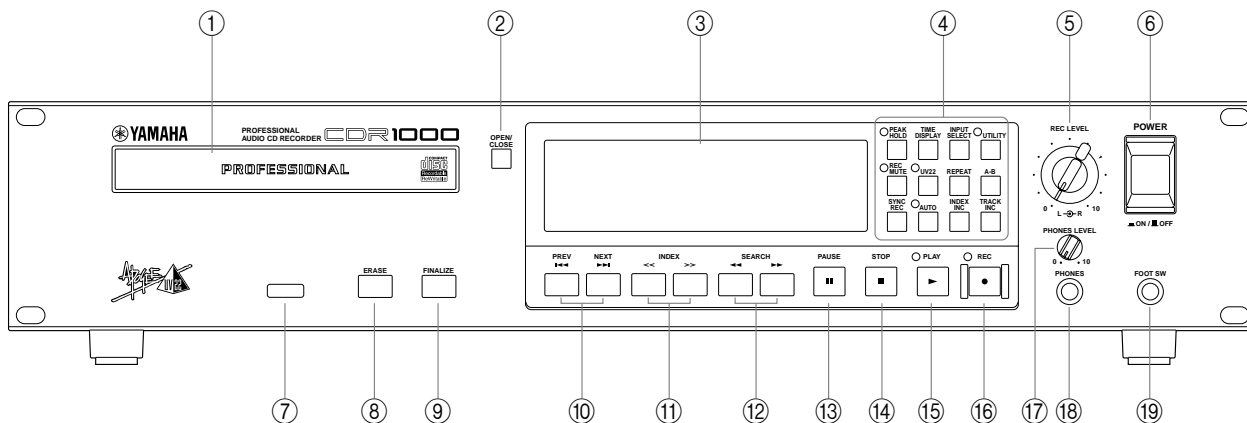
ファイナライズしていないCD-RWディスクは、他のCD-RWレコーダーで再生できます。またCD-Rディスクと異なり、CD-RWディスクは最後に録音されたトラックやディスク全体を消去することができます。

## エンファシス

CDR1000はエンファシス信号(15 $\mu$ s/50 $\mu$ s)を含んでいるデジタル信号を受け取ると、エンファシス信号を録音します。

## 第2章 各部の名称と機能

### フロントパネル



- ① ディスクトレイ  
CDR1000にディスクを挿入するのに使います。詳しくは18ページの「ディスクの挿入と取り出し」をお読みください。
- ② OPEN/CLOSEボタン  
ディスクトレイを開閉するボタンです。
- ③ ディスプレイ  
詳しくは8ページの「ディスプレイ」をお読みください。
- ④ ファンクションボタン  
詳しくは9ページの「ファンクションボタン」をお読みください。
- ⑤ REC LEVELツマミ  
アナログ入力からの録音レベルを設定します。L/R独立して設定できます。詳しくは25ページの「録音」をお読みください。
- ⑥ POWERスイッチ  
電源のオン/オフを切り替えます。誤操作を防ぐために奥まった位置にスイッチが設置されています。詳しくは16ページの「電源の入れ方」をお読みください。
- ⑦ リモートコントロールセンサー  
リモートコントローラーからの赤外線信号を受信します。
- ⑧ ERASEボタン  
消去機能を選択するボタンです。詳しくは45ページの「ディスクの消去(CD-RWディスクのみ)」をお読みください。
- ⑨ FINALIZEボタン  
ファイナライズ機能を選択するボタンです。詳しくは44ページの「ディスクのファイナライズ」をお読みください。

## ⑩ PREV、NEXT(◀◀、▶▶)ボタン

トラックを選択するボタンです。再生中にPREV[◀◀]ボタンを押すと現在のトラックの先頭が選択されます。もう一度押すと直前のトラックが選択されます。NEXT[▶▶]ボタンを押すと次のトラックが選択されます。詳しくは23ページの「トラックを選択する」をお読みください。ユーティリティー、ディスクの消去、同期録音の各機能でも、これらのボタンが使われます。

## ⑪ INDEX(◀◀、▶▶)ボタン

インデックスを選択します。再生中にINDEX[◀◀]ボタンを押すと現在のインデックスの先頭が選択されます。もう一度押すと直前のインデックスが選択されます。INDEX[▶▶]ボタンを押すと次のインデックスが選択されます。詳しくは23ページの「インデックスを選択する」をお読みください。

## ⑫ SEARCH(◀◀、▶▶)ボタン

再生中と一時停止時に、早戻し再生と早送り再生をするボタンです。早戻しSEARCH[◀◀]ボタンを押し続けると早戻し再生をします。早送りSEARCH[▶▶]ボタンを押し続けると早送り再生をします。詳しくは23ページの「再生音をサーチする」をお読みください。

## ⑬ PAUSEボタン

現在の再生を一時停止、録音を録音待機にします。また、一時停止状態から再生開始、録音待機状態から録音開始するときにも使用します。一時停止と録音待機モードのときは、ディスプレイにPAUSEインジケータが点灯します。

## ⑭ STOPボタン

再生停止と録音停止に使われるボタンです。

## ⑮ PLAYボタン、インジケータ

再生開始と録音開始に使われるボタンです。PLAYインジケータは再生中と録音中に点灯します。詳しくは21ページの「ディスクの再生」をお読みください。

## ⑯ RECボタン、インジケータ

録音待機モードにするためのボタンです。RECインジケータは録音待機モードで点滅し録音中は点灯します。詳しくは25ページの「録音」をお読みください。

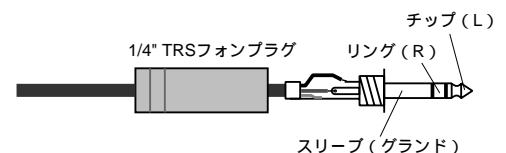
## ⑰ PHONES LEVELツマミ

ヘッドフォンの音量を調節します。詳しくは20ページの「モニター」をお読みください。

## ⑱ PHONES端子

ステレオヘッドフォンを接続してモニターできます。詳しくは20ページの「モニター」をお読みください。

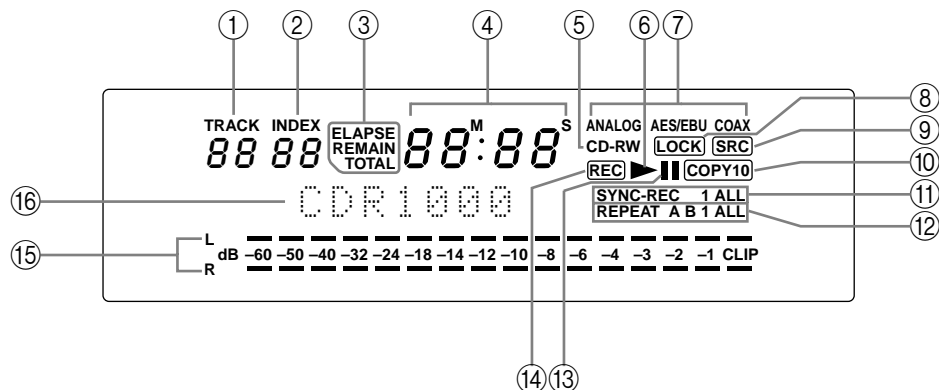
右図はヘッドフォンの配線図です。



## ⑲ FOOT SW端子

オプションのフットスイッチを接続して録音、停止、再生を操作できます。詳しくは49ページの「フットスイッチの使い方」をお読みください。

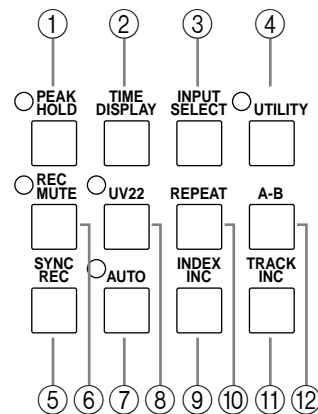
## ディスプレイ



- ① TRACKインジケータ  
選択しているトラック番号を表示します。
- ② INDEXインジケータ  
選択しているインデックス番号を表示します。
- ③ ELAPSE・REMAIN・TOTALインジケータ  
選択しているタイムディスプレイモードが点灯します。詳しくは19ページの「タイムディスプレイモードの設定」をお読みください。
- ④ タイムディスプレイ  
分、秒で再生時間と録音時間を表示します。
- ⑤ ディスクインジケータ  
挿入されたディスクタイプとステータスを表示します。詳しくは18ページの「ディスクタイプとステータス」をお読みください。
- ⑥ プレイ(▶)インジケータ  
再生中と録音中に点灯します。ファイナライズ中、イレース中、PMA記録中は点滅します。
- ⑦ ANALOG・AES/EBU・COAXインジケータ  
選択している入力ソースを表示します。詳しくは25ページの「入力ソースの選択」をお読みください。
- ⑧ LOCKインジケータ  
入力したデジタル信号のワードロックにCDR1000がロックすると点灯します。詳しくは25ページの「入力ソースの選択」をお読みください。
- ⑨ SRCインジケータ  
内蔵のサンプリングレートコンバーターが機能すると点灯します。詳しくは26ページの「サンプリングレートコンバーターを使う」をお読みください。
- ⑩ COPYインジケータ  
コピービットの設定を表示します。詳しくは28ページの「コピービットの設定」をお読みください。

- ⑪ SYNC-REQ(同期録音)インジケータ  
同期録音のモードを表示するインジケータです。ワントラック同期録音(SYNC-REC 1)とオールトラック同期録音(SYNC-REC ALL)の2つのモードがあります。詳しくは40ページの「CD・MD・DATソースとの同期録音」をお読みください。
- ⑫ REPEATインジケータ  
リピート再生のモードを表示するインジケータです。詳しくは24ページの「リピート再生を使う」をお読みください。
- ⑬ ポーズ(II)インジケータ  
再生時の一時停止と録音待機モードで点灯します。
- ⑭ RECインジケータ  
録音待機モード中は点滅し、録音中は点灯します。
- ⑮ L、Rレベルメータ  
ピークホールド機能をもつ16セグメントのメータで、再生/入力レベルを-60~-1dBの範囲とCLIPを表示します。詳しくは20ページの「メータとピークホールド」をお読みください。
- ⑯ メッセージエリア  
CDR1000のステータスと操作モード、ユーティリティ機能のパラメータを最大12文字で表示します。

## ファンクションボタン



- ① PEAK HOLDボタン、インジケータ  
ピークホールド機能をオン/オフします。オンにするとインジケータは点灯します。詳しくは20ページの「メータとピークホールド」をお読みください。
- ② TIME DISPLAYボタン  
ELAPSE(経過時間)・REMAIN(残り時間)・TOTAL(トータル経過時間)のいずれかのディスプレイモードを選択するボタンです。選んだディスプレイモードが表示されます。詳しくは19ページの「タイムディスプレイモードの設定」をお読みください。
- ③ INPUT SELECTボタン  
ANALOG・AES/EBU・COAXIALから入力ソースを選択するボタンです。選んだ入力ソースのインジケータが点灯します。詳しくは25ページの「入力ソースの選択」をお読みください。

## ④ UTILITYボタン、インジケータ

各種ユーティリティー機能にアクセスします。ユーティリティー機能を選択するとインジケータが点灯します。

[ UTILITY ] ボタンでアクセスできる機能:

ユーティリティー機能	設定
オートレックスタート/オートトラックインクリメント	30、35、40、45、50、55、60、70、90( - dB )
インプットディレイ	0、66、132、198、264、330、396、462... 4,950ミリ秒
フェードイン	0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10秒
フェードアウト	0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10秒
レベルメーター速度	SLOW、FAST
AES/EBU再生クロック選択	INT、WORD、AES、COAX
デジタルアウト設定	NORMAL、THRU
コピービット	PERMIT、ONCE、PROTECT
リモートコントローラー	ON、OFF
サンプリングレートコンバーター	ON、AUTO

## ⑤ SYNC REQ(同期録音)ボタン

同期録音、またはオートファイナライズを選択するボタンです。詳しくは40ページの「CD・MD・DATソースとの同期録音」をお読みください。

## ⑥ REC MUTEボタン、インジケータ

曲間に2秒の無音を挿入します。レックミュート待機モード時はインジケータが点滅します。詳しくは36ページの「2秒間のミュートを挿入する(レックミュート)」をお読みください。

## ⑦ AUTOボタン、インジケータ

オートレックをオン/オフします。オンにするとインジケータが点灯します。詳しくは34ページの「オートレックスタート/オートトラックインクリメントを使う」をお読みください。

## ⑧ UV22ボタン、インジケータ

UV22機能をオン/オフします。オンにするとインジケータが点灯します。詳しくは28ページの「UV22を使う」をお読みください。

## ⑨ INDEX INCボタン

録音時のインデックス番号をマニュアルで更新します。詳しくは33ページの「マニュアル操作でインデックス番号を書き込む」をお読みください。

## ⑩ REPEATボタン

リピート再生を選びます。詳しくは24ページの「リピート再生を使う」をお読みください。

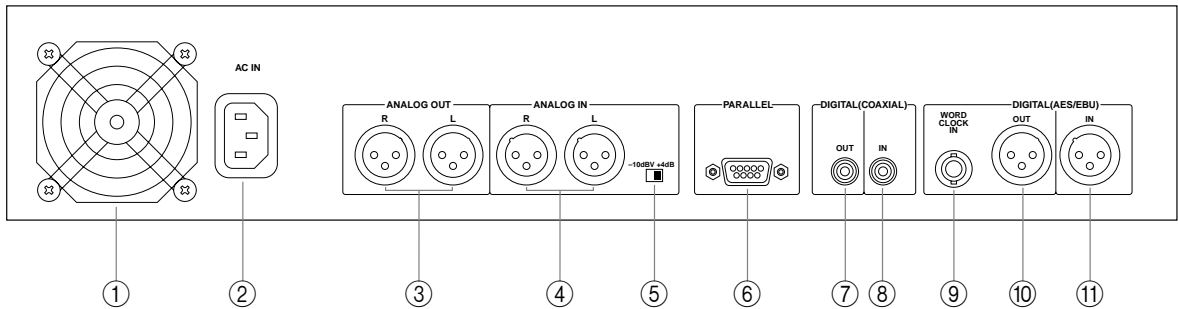
## ⑪ TRACK INCボタン

録音時のトラック番号をマニュアルで更新します。詳しくは32ページの「マニュアル操作でトラック番号を書き込む」をお読みください。

## ⑫ A-Bボタン

A-Bリピート再生のA・Bポイントを設定します。各ポイントが設定されると該当するインジケータが点灯します。詳しくは24ページの「リピート再生を使う」をお読みください。

## リアパネル



### ① 冷却ファン

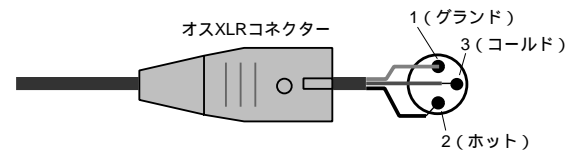
CDR1000内部を冷却します。詳しくは1ページの「CDR1000の設置」をお読みください。

### ② AC IN端子

付属の電源コードでCDR1000をACコンセントに接続します。詳しくは16ページの「電源コードの接続」をお読みください。

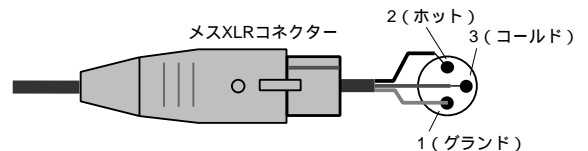
### ③ ANALOG OUT端子

バランス型のXLR-3-32端子です。再生・モニター信号をアナログで出力します。ピンの配線は、ピン1 = グランド、ピン2 = ホット(+)、ピン3 = コールド(-)となっています。

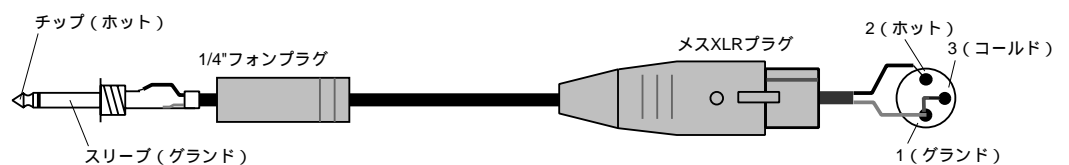


### ④ ANALOG IN端子

バランス型のXLR-3-31端子です。アナログ信号を接続します。ピンの配線は、ピン1 = グランド、ピン2 = ホット(+)、ピン3 = コールド(-)となっています。詳しくは25ページの「入力ソースの選択」をお読みください。



アンバランス型フォンジャックで接続する場合は、次の図のようにケーブル配線してください。(例: XLRのピン3とピン1を結線)



### ⑤ ANALOG IN入力感度スイッチ

ANALOG IN端子の入力信号に合わせて - 10dBVと + 4dBを切り替えます。

⑥ PARALLEL端子

9ピンのD-Sub端子です。CDR1000の機能にアクセスする一般的なインタフェースです。複数のCDR1000で同時に録音したり、CDR1000を使ったディスクコピーシステム等のコントロールに利用できます。詳しくは51ページの「PARALLEL端子」をお読みください。

⑦ DIGITAL( COAXIAL )OUT端子

RCAピン端子です。再生・モニター音声をS/PDIFフォーマットのデジタル信号で出力します。

⑧ DIGITAL( COAXIAL )IN端子

RCAピン端子です。S/PDIFフォーマットのデジタル信号を入力します。詳しくは25ページの「入力ソースの選択」をお読みください。

⑨ WORD CLOCK IN端子

外部機器からワードクロック信号を入力するBNC端子です。AES/EBU OUT端子のクロックソースとして選べます。

⑩ DIGITAL( AES/EBU )OUT端子

バランス型XLR-3-32端子です。再生・モニター音声をAES/EBUフォーマットのデジタル信号で出力します。

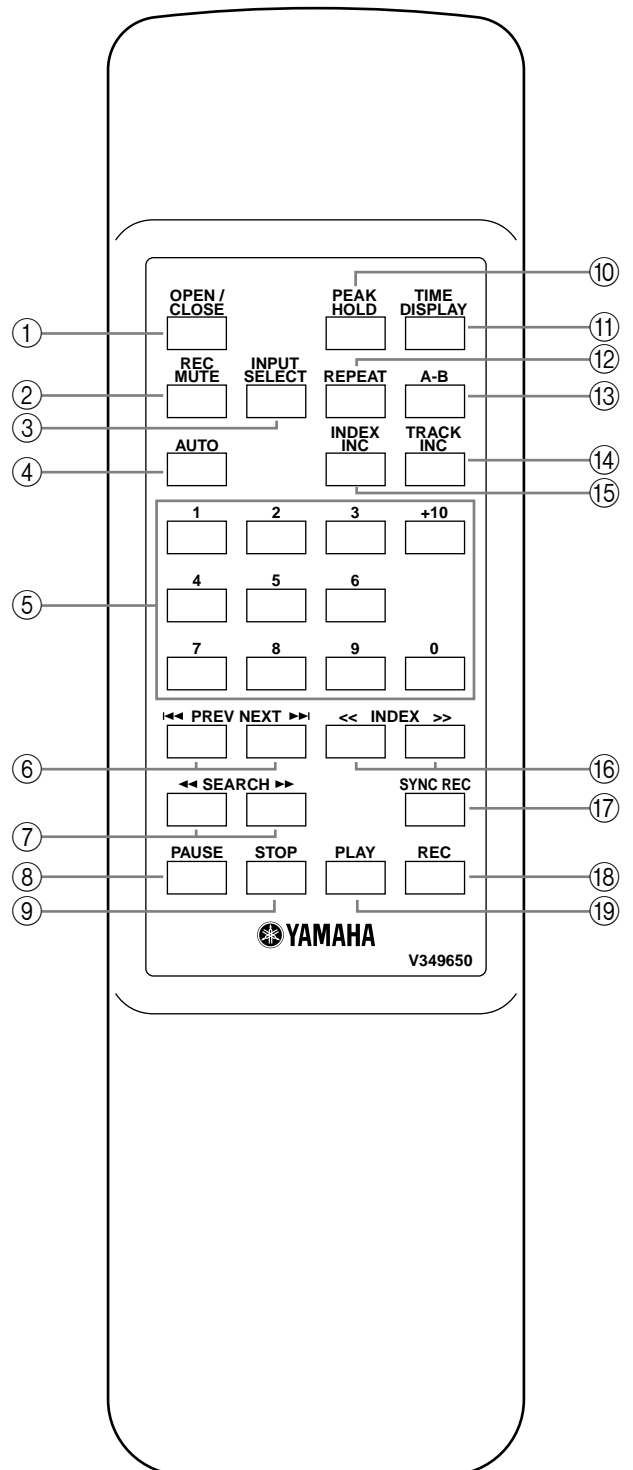
⑪ DIGITAL( AES/EBU )IN端子

バランス型XLR-3-31端子です。AES/EBUフォーマットのデジタル信号を入力します。詳しくは25ページの「入力ソースの選択」をお読みください。

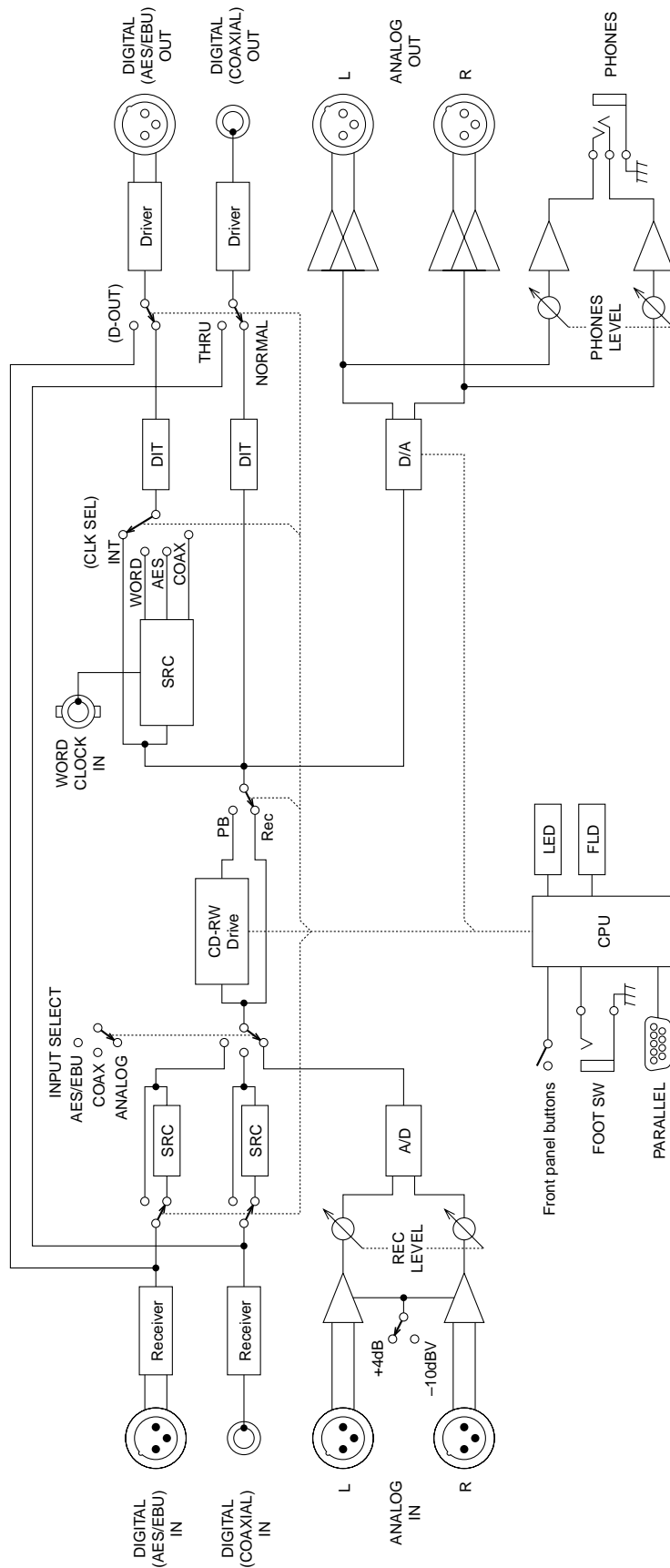
## リモートコントローラー

リモートコントローラーの数字ボタン以外の操作は、CDR1000のフロントパネルと同じ操作です。

- ① OPEN/CLOSEボタン
- ② REC MUTEボタン
- ③ INPUT SELECTボタン
- ④ AUTOボタン
- ⑤ 数字ボタン  
再生トラック番号を選択できません。詳しくは23ページをお読みください
- ⑥ PREV、NEXT(◀◀、▶▶)ボタン
- ⑦ SEARCH(◀◀、▶▶)ボタン
- ⑧ PAUSEボタン
- ⑨ STOPボタン
- ⑩ PEAK HOLDボタン
- ⑪ TIME DISPLAYボタン
- ⑫ REPEATボタン
- ⑬ A-Bボタン
- ⑭ TRACK INCボタン
- ⑮ INDEX INCボタン
- ⑯ INDEX(◀◀、▶▶)ボタン
- ⑰ SYNC RECボタン
- ⑱ RECボタン
- ⑲ PLAYボタン



# ブロック図



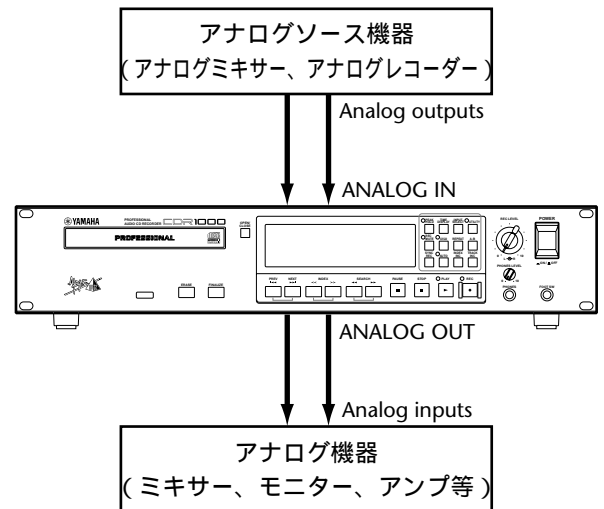
## 第3章 操作前の基礎

### 接続例

#### Analog XLR 端子接続

アナログ入出力端子は、アナログミキサー・アナログレコーダー等のアナログ入出力端子との接続に使用します。

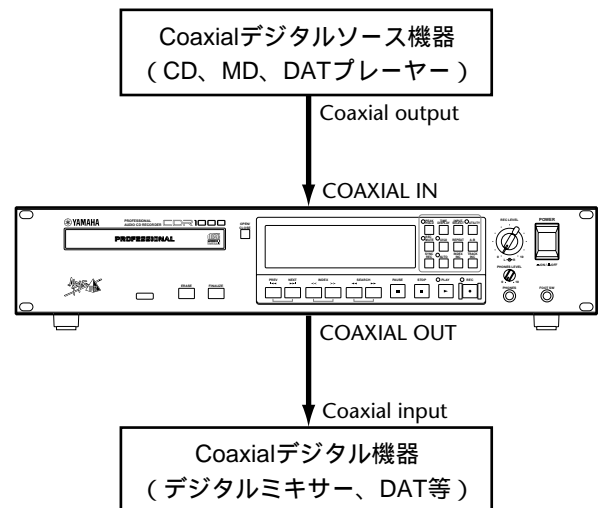
アナログ入力感度は、接続する機器に応じて  $-10\text{dBV}$  と  $+4\text{dB}$  を切り替えます。



#### COAXIAL(S/PDIF) 端子接続

COAXIAL入出力端子は、CD・DAT・MDプレーヤー等のCOAXIAL(S/PDIF)端子との接続に使用します。

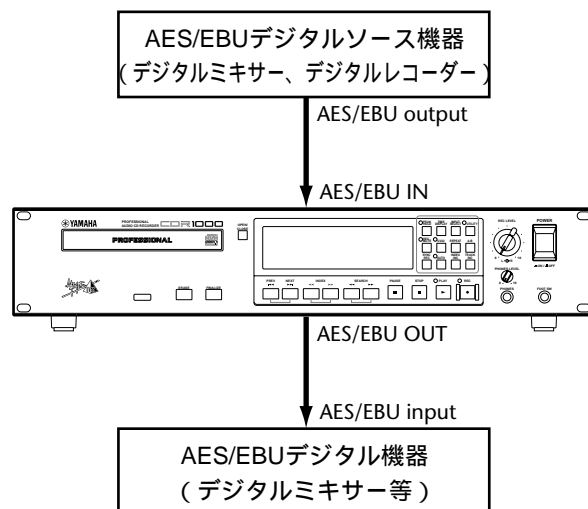
接続には75Ωのデジタル同軸ケーブルを使用してください。アナログオーディオケーブルを使用するとデジタル信号の送信時にエラーになる恐れがあります。



### AES/EBU (XLR端子) 接続

AES/EBU入出力端子は、デジタルミキサー・デジタルレコーダー等のAES/EBU入出力端子との接続に使用します。

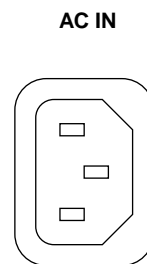
接続には110 のデジタルケーブルを使用してください。アナログオーディオケーブルを使用するとデジタル信号の送信時にエラーになる恐れがあります。



## 電源コードの接続

**警告:** 電源コードを接続する前に、接続する全ての機器の電源を切ってください。

リアパネルのAC IN端子に電源コードのソケットを接続し、電源コンセントに電源コードのプラグを接続してください。本機のリアパネルに表示されている電源にあったコンセントに接続してください。



## 電源の入れ方

電源のオン/オフ時にスピーカーから大きなノイズを出さないために、次の順序で機器の電源を入れてください(電源を切るときはこの逆の順序で行います)。

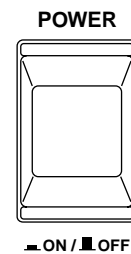
音源 (CDプレーヤー等) CDR1000 ミキシングコンソール モニター用パワーアンプ

- 1 [POWER]スイッチを押し電源を入れます。

電源が入ると「SELF-CHECK」と表示されます。この間、CDR1000は内部のイニシャライズを行っています。ディスクを読み取っている間、「READING」が表示されます。

- 2 [POWER]スイッチをもう一度押し電源を切ります。

**注意:** ディスクを取り出してから本機の電源を切ってください。



## 輸送用保護パッドの取り出し

本機は輸送中の内部機構に対する衝撃に対処するため、ディスクトレイ上に輸送用保護パッドが装着された状態で出荷されています。本機をご使用になる前に輸送用保護パッドを取り外してください。

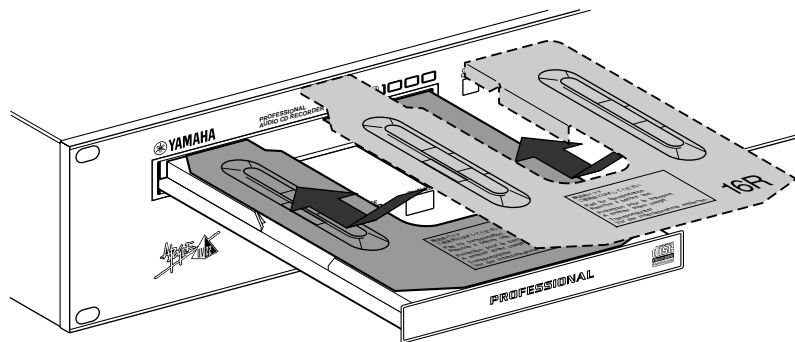
手順は、CDR1000の電源を入れる [ OPEN/CLOSE ] ボタンを押しディスクトレイを開ける 輸送用保護パッドを取り外す

次回の輸送のために輸送用保護パッドは必ず保管しておいてください。

### 輸送用保護パッドの装着

CDR1000を輸送するときは、その前に以下のように輸送用保護パッドを装着してください。

- 1 CDR1000の電源を入れます。
- 2 [ OPEN/CLOSE ] ボタンを押しディスクトレイを開けます。
- 3 図のようにトレイに輸送用保護パッドをを置きます。



- 4 [ OPEN/CLOSE ] ボタンを押しディスクトレイを閉じます。
- 5 CDR1000の電源を切ります。

## ディスクの挿入と取り出し

ここではディスクの挿入と取り出しについて説明します。

- 1 [ OPEN/CLOSE ]ボタンを押しディスクトレイを開けます。  
ディスプレイに“ OPEN ”と表示され、ディスクトレイが開きます。
- 2 ラベル面を上にしてディスクをトレイの中央におきます。
- 3 もう一度 OPEN/CLOSE ボタンを押しディスクトレイを閉じます。  
ディスプレイに“ CLOSE ”と表示されディスクトレイが閉ります。  
ディスクトレイが再び開く場合は、ディスクがディスクトレイに正しく置かれているか確認してください。  
ディスクトレイを少し手で押しても自動的に閉じます。

注意：電源オフ時にディスクトレイを手で無理に押し込まないでください。  
故障の原因になります。

- 4 ディスクを取り出すには、作業中の操作を終了してから[ OPEN/CLOSE ]ボタンを押します。ディスクトレイが完全に開いてからディスクを取り出します。  
次の表はディスク関連のメッセージとその内容を示したものです。

メッセージ	内容
OPEN	ディスクトレイを開いています。
CLOSE	ディスクトレイを閉じています。
READING	ディスク情報を読み取っています。
OPC	OPCを行っています。
OPC OVER	OPCエリアがなくなりました。ディスクを交換してください。
NO DISC	ディスクが挿入されていません。
ERROR-xxxxxx	詳しくは54ページの「エラーメッセージ」をお読みください。
BLANK	ブランクディスクが挿入されてます。
UNRECORDABLE	録音できません。ファイナライズするか、またはディスクを交換してください。
ROM	CD-ROMなどデータが記録されているディスクです。再生できませんからディスクを交換してください。
WAIT	PMAを記録中です。
OUT OF RANGE	入力されたワードクロックが、サンプリングレートコンバーターが変換できる範囲を超えています。
SELF-CHECK	CDR1000は内部のイニシャライズを行っています。
CHECK INPUT	同期録音のためには入力ソースをCOAXに設定してください。
NO CD	挿入されたディスクはCD・CD-R・CD-RWディスクではありません。ディスクを交換してください。

### ディスクタイプとステータス

ディスクが挿入されると本機はディスクタイプとステータスを判断し、ディスプレイにディスクタイプを表示します。

インジケーター	ディスクタイプ/ステータス
CD	オーディオCD( CD-DA )かファイナライズされたCD-R
CD-R	ファイナライズされていないCD-Rディスク
CD-RW	CD-RWディスク

## リモートコントローラーの操作

リモートコントローラーの多くのボタンは本体ボタンと同じものですが、[ UV22 ] [ UTILITY ] [ ERASE ] [ FINALIZE ]のように本体にあってリモートコントローラーにないものや、数字ボタンのように本体になくてリモートコントローラーにあるものもあります。

### リモートコントローラーの電池交換

リモートコントローラーは単三電池2個で働きます。本機には新しい電池が2個付属しています。電池交換に道具は必要ありません。

- 1 電池カバーを取り外します。
- 2 電池ケース内の表示に従って、プラス( + )とマイナス( - )の向きを間違えないように正しく入れます。
- 3 電池カバーを取り付けます。

リモートコントローラーが働かないときは、電池の向きを再確認してください。それでも働かないときは、CDR1000のUTILITY/REMOTEパラメーターが「ON」に設定してあるか確かめてください。詳しくは50ページの「リモートコントローラーをオフにする」をお読みください。

数ヶ月後にリモートコントローラーが働かなくなったときは、新しい電池に交換してください。交換するときは、単三電池2個同時に交換してください。リモートコントローラーを長い間(例えば1ヶ月)使わないときは、電池漏れを防ぐため、電池を取り出してください。

## タイムディスプレイモードの設定

CDR1000のタイムディスプレイに表示する時間を、再生 / 録音の経過時間( ELAPSE )・残り時間( REMAIN )・トータル経過時間( TOTAL )の中から選択できます。

- 1 [ TIME DISPLAY ]ボタンでディスプレイモードを選びます。

ディスプレイモード	内容
ELAPSE:経過時間	トラックの先頭から現在までの時間です。
REMAIN:残り時間	現在からディスクの終わりまでの時間です。
TOTAL:トータル経過時間	ディスクの初めから現在までの時間です。

選択されたディスプレイモードのインジケーターが点灯します。  
ELAPSE・REMAIN・TOTAL

## モニター

再生信号はANALOG OUT・AES/EBU OUT・COAXIAL OUT・PHONESの端子から出力されます。

録音中と録音待機中は、録音に選ばれた入力ソースをANALOG OUT・AES/EBU OUT・COAXIAL OUT・PHONESの端子から出力します。

ヘッドフォンの音量調整はPHONES LEVELツマミで行います。

AES/EBU IN・COAXIAL IN端子からのデジタル入力は録音レベルを調整できません。出力機器の方で調整してください。再生時のAES/EBU OUT・COAXIAL OUT端子からの出力レベルは、CDに録音されたときと同じレベルで出力されます。録音レベルはAES/EBU IN・COAXIAL IN端子からの信号と同じレベルです。

REC LEVELツマミでANALOG IN端子からの録音レベルを調整します。録音中は、ANALOG OUT端子からの出力レベルもREC LEVELツマミで変化します。本機は、録音時以外はANALOG OUT端子の出力レベルは固定です。

## メーターとピークホールド

再生・録音時の信号レベルは、ピークホールド機能をもつ16セグメントのメーターに -60 ~ -1dB、とCLIPで表示されます。録音中と録音待機中は、録音ソースの信号レベルをメーターに表示します。ピークホールド機能は、オンにすると最大レベルのポイントが点灯したままになるので、録音レベルの調整が簡単になります。オフのときは最大レベルのポイントは1秒間点灯します。

- 1 [ PEAK HOLD ] ボタンを押してピークホールド機能をオンにします。  
PEAK HOLDインジケーターが点灯します。  
メーターの振れが最大レベルのポイントで点灯したままになります。
- 2 [ PEAK HOLD ] ボタンをもう一度押してピークホールド機能をオフにします。  
PEAK HOLDインジケーターが消灯します。  
メーターの振れが最大レベルのポイントで1秒間点灯します。

## レベルメーターが下がる速度の設定

レベルメーターがピークレベルから下がるまでの速度を、UTILITY/METERパラメーターでSLOW・FASTから選べます。

- 1 [ UTILITY ] ボタンで“ METER ”を選びます。  
UTILITYインジケーターが点灯し、レベルメーターの下がる速度設定が表示されます。
- 2 [ PREV ] ボタン、または[ NEXT ] ボタンで設定します。

表示	内容
SLOW	レベルメーターはピークレベルからゆっくり下がります。
FAST	レベルメーターはピークレベルから速く下がります。

- 3 [ UTILITY ] ボタンか他のボタンを押して、ユーティリティー機能から抜けます。

## 第4章 再生

### ディスクの再生

CDR1000はCD・CD-R・CD-RWの各ディスクが再生できます。CD-RディスクやCD-RWディスクはファイナライズしていなくても再生できます。マルチセッションで記録されたディスクは第1セッションのみ再生可能です。

- 1 再生したいディスクを挿入します。  
詳しくは18ページの「ディスクの挿入と取り出し」をお読みください。
- 2 [PLAY] ボタンを押します。  
最初のトラックが再生されます。PLAYインジケータが点灯し時間がディスプレイに表示されます。  
オプションのフットスイッチでも再生できます。詳しくは49ページの「フットスイッチの使い方」をお読みください。  
表示させる時間をタイムディスプレイモードの経過時間・残り時間・トータル経過時間のいずれかで表示できます。詳しくは19ページの「タイムディスプレイモードの設定」をお読みください。

### 一時停止

- 1 [PAUSE] ボタンを押します。  
再生を一時停止し、PLAYインジケータは消灯し、PAUSEインジケータが点灯します。
- 2 [PAUSE] ボタン、または[PLAY] ボタンを押すと再生を再開します。  
再生は再開され、PAUSEインジケータは消灯し、PLAYインジケータが点灯します。  
一時停止のとき、サーチ機能が使えます。詳しくは23ページの「再生音をサーチする」をお読みください。

### 停止

- 1 [STOP] ボタンを押します。  
再生を停止し、PLAYインジケータは消灯します。  
オプションのフットスイッチでも停止できます。詳しくは49ページの「フットスイッチの使い方」をお読みください。  
ディスクの終わりまで再生すると自動的に再生は停止します。

## 再生操作とボタンの働き

次の表は再生操作での各ボタンの働きを示しています。

x = 変化なし、もしくは無効

ボタン	操作			
	ディスクトレイが開いているとき	停止時 (ディスクトレイが閉じているとき)	再生時	再生一時停止時
[ OPEN/CLOSE ]	ディスクトレイを閉じます。	ディスクトレイを開きます。	停止し、ディスクトレイを開きます。	一時停止を解除し、ディスクトレイを開きます。
[ STOP ]	x	x	停止します。	一時停止が解除され、停止します。
[ PLAY ]	ディスクトレイを閉じ、再生します。	再生します。 <sup>†1</sup>	x	再び再生します。
[ PAUSE ]	ディスクトレイを閉じ、一時停止します。	指定したトラック番号の先頭で一時停止します。	一時停止します。	再び再生します。
PREV [ ◀◀ ]	前のトラックが選ばれます。	前のトラックが選ばれますが、再生は始めません。	現在のトラックの先頭から再生します。繰り返して押すと順次前のトラックが選ばれます。	現在のトラックの先頭が選ばれ、引き続き一時停止します。繰り返して押すと順次前のトラックが選ばれます。
NEXT [ ▶▶ ]	次のトラックが選ばれます。	次のトラックが選ばれますが、再生は始めません。	次のトラックの先頭に移動し、再生します。繰り返して押すとさらに次のトラックが選ばれます。	次のトラックの先頭に移動し、引き続き一時停止します。繰り返して押すとさらに次のトラックが選ばれます。
INDEX [ << ]	x	x	現在のインデックスの先頭に移動し、引き続き再生します。繰り返して押すとさらに前のインデックスが選ばれます。	現在のインデックスの先頭に移動し、引き続き一時停止します。繰り返して押すとさらに前のインデックスが選ばれます。
INDEX [ >> ]	x	x	次のインデックスの先頭に移動し、引き続き再生します。繰り返して押すとさらに次のインデックスが選ばれます。	次のインデックスの先頭に移動し、引き続き一時停止します。繰り返して押すとさらに次のインデックスに移動します。
SEARCH [ ◀◀ ]	x	x	トラックの先頭方向に向かってサーチし、再生します。	トラックの先頭方向に向かってサーチし、一時停止します。
SEARCH [ ▶▶ ]	x	x	トラックの進行方向に向かってサーチし、再生します。	トラックの進行方向に向かってサーチし、一時停止します。
フットスイッチ	x	再生します。 <sup>†1</sup>	停止します。	x
数字ボタン (リモコン) <sup>†2</sup>	ディスクトレイを閉じ、指定されたトラックから再生します。	指定されたトラックから再生します。	指定されたトラックを再生します。	指定されたトラックに移動し、一時停止します。

†1. 再生する前に [ PREV ]・[ NEXT ] ボタンでトラックを選べます。

†2. 指定したトラック番号が最後のトラック番号より大きいと、最後のトラックが選ばれます。

## トラックを選択する

トラックの指定は停止中・再生中・一時停止中にPREV[◀◀]ボタンやNEXT[▶▶]ボタンを使って行います。

- 1 PREV[◀◀]ボタンを押すと現在のトラックの先頭に移動します。もう一度ボタンを押すと前のトラックの先頭に移動します。
- 2 NEXT[▶▶]ボタンを押すと次のトラックの先頭に移動します。もう一度ボタンを押すとさらに次のトラックの先頭に移動します。  
指定したトラック番号はディスプレイのTRACK部に表示されます。

## トラックを数字ボタンで選択する(リモートコントローラー操作)

停止中・再生中・一時停止中に、リモートコントローラーの数字ボタンで直接トラックを指定できます。

- 1 リモートコントローラーの数字ボタンを押してトラックを指定します。  
[1]~[9]のボタンを押すとトラック1~9が選べます。例えば、トラック3を指定するなら[3]のボタンを押します。  
10以上のトラックを選ぶには[+10]ボタンを押し、10の位を指定し、次に[0]~[9]のボタンを押し、1の位を指定します。例えば、トラック13を選ぶときは[+10]ボタンを押し、次に[3]ボタンを押します。  
指定したトラック番号が最後のトラック番号より大きいときは、最後のトラックが選ばれます。

## インデックスを選択する

インデックスは再生中や一時停止中にINDEX[<< 前へ]・INDEX[>> 次へ]ボタンを使って選べます。

- 1 INDEX[<< 前へ]ボタンを押して現在のインデックスの先頭へ移動します。もう一度ボタンを押すとさらに前のインデックスに移動します。
- 2 INDEX[>> 次へ]ボタンを押して次のインデックスの先頭に移動します。もう一度ボタンを押すとさらに次のインデックスの先頭に移動します。  
指定したインデックスが見つからないときは、最初のインデックスが選ばれます。

## 再生音をサーチする

再生中や一時停止中にSEARCH[◀◀][▶▶]ボタンを使い素早く聞きたい場所を探せます。

- 1 SEARCH[◀◀]ボタンを押し続けると先頭方向にサーチします。  
現在のポジションから先頭方向へサーチし、PLAYインジケータは消灯します。現在のトラックの先頭に達すると、さらにその前のトラックをサーチします。最初のトラックの先頭に達するとサーチは終了します。  
SEARCH[◀◀]ボタンを放すと、ボタンを押す前の状態(再生や一時停止)に戻り、対応するインジケータが点灯します。

- 2 SEARCH [▶▶] ボタンを押し続けると進行方向にサーチします。  
CDR1000は現在のポジションから進行方向へ向かってサーチし、PLAYインジケータは消灯します。現在のトラックの終端に達すると、さらにその次のトラックをサーチします。最終トラックの終端に達するとサーチは終了します。

注意: サーチ中の再生音はANALOG OUT端子とPHONES端子からのみ出力されません。AES/EBU OUT端子、COAXIAL OUT端子からは出力されず無音です。

## リピート再生を使う

CDR1000は以下の3種類のリピート再生が可能です。

- トラックリピート (REPEAT 1): 再生中のトラックをリピート再生します。
- オールリピート (REPEAT ALL): 全てのトラックをリピート再生します。
- A-Bリピート (REPEAT A B): 指定されたAポイントとBポイントの間をリピート再生します。

### トラックリピート再生

- 1 [REPEAT] ボタンを押します。  
トラックリピート再生が始まりREPEAT 1インジケータが点灯します。
- 2 [REPEAT] ボタンを2回押すとトラックリピート再生をキャンセルします。  
通常の再生に戻りREPEAT 1インジケータは消灯します。

### オールリピート再生

- 1 [REPEAT] ボタンを2回押します。  
オールリピート再生が始まりREPEAT ALLインジケータが点灯します。
- 2 [REPEAT] ボタンを押すとオールリピート再生をキャンセルします。  
通常の再生に戻りREPEAT ALLインジケータは消灯します。

### A-Bリピート再生

- 1 [A-B] ボタンを押し、Aポイントを指定します。  
Aポイントが設定されREPEAT Aインジケータが点灯します。  
AポイントとBポイントは同じトラック内でも別のトラック間でも指定できます。
- 2 [A-B] ボタンをもう一度押し、Bポイントを指定します。  
AポイントとBポイント間で再生が繰り返されREPEAT ABインジケータが点灯します。
- 3 [A-B] ボタンをもう一度押すとA-Bリピートをキャンセルします。  
通常の再生が再開されREPEAT ABインジケータは消灯します。

## 第5章 録音

### 録音準備

CDR1000はCD-R・CD-RWディスクに録音できます。

- 1 録音したいディスクを挿入します。  
詳しくは18ページの「ディスクの挿入と取り出し」をお読みください。
- 2 入力ソースを選びます。  
詳しくは次項の「入力ソースの選択」をお読みください。
- 3 AES/EBU IN端子、またはCOAXIAL IN端子から入力するときは、必要に応じてサンプリングレートコンバーターを設定します。  
詳しくは26ページの「サンプリングレートコンバーターを使う」をお読みください。
- 4 コピービットを設定します。  
詳しくは28ページの「コピービットの設定」をお読みください。
- 5 必要に応じてUV22を設定します。  
詳しくは28ページの「UV22を使う」をお読みください。
- 6 必要に応じてインプットディレイ機能を設定します。  
詳しくは27ページの「インプットディレイを使う」をお読みください。
- 7 29ページの「録音操作」に進みます。

### 入力ソースの選択

ANALOG IN・AES/EBU IN・COAXIAL INから録音したい入力ソースを選びます。ディスプレイに現在選ばれている入力ソースが表示されます。

- 1 [INPUT SELECT] ボタンを押し、入力ソースを選びます。

設定	説明
ANALOG	ANALOG IN端子(アナログ)
AES/EBU	AES/EBU IN端子(AES/EBUデジタル)
COAX	COAXIAL IN端子(S/PDIFデジタル)

入力ソースをAES/EBU、またはCOAXに設定し、入力信号がロックするとLOCKインジケータが点灯します。ロックしていないとLOCKインジケータは点滅します。その場合は、ソース機器の電源が入っているか、CDR1000に対して正しく接続されているか確認してください。LOCKインジケータが点滅している間はCOAXIAL IN端子、AES/EBU IN端子からのソース信号は録音はできません。

## サンプリングレートコンバーターを使う

CDR1000は、オーディオCD標準(44.1kHz)以外のサンプリングレートのデジタルソースを録音するためにサンプリングレートコンバーター(SRC)を内蔵しています。

SRCが44.1kHzに変換できるサンプリングレートは30~50kHzの範囲です。

44.1kHzのデジタルソースを録音するときは、CDR1000はソース信号のサンプリングレートにロックしますが、サンプリングレートが許容範囲内(±150ppm)から外れてしまうと自動的にサンプリングレートコンバーターが動作します。

サンプリングレートコンバーターを作動させるには、UTILITY/SRCパラメーターを使用します。

- 1 [UTILITY] ボタンを押し「SRC」を選びます。  
UTILITYインジケーターが点灯し、SRC設定がディスプレイに表示されます。
- 2 [PREV] ボタン、または [NEXT] ボタンを押してサンプリングレートコンバーターを「ON」か「AUTO」に設定します。

設定	機能説明
AUTO	選ばれているデジタル入力ソースのサンプリングレート(44.1kHz)が150ppm以上変動するときに、自動的にオンになります。変動しないときには自動的にオフになります。
ON	サンプリングレートコンバーターは常にオンになります。

- 3 ユーティリティー機能から抜けるには、[UTILITY] ボタンを押し続けるか他のボタンを押します。

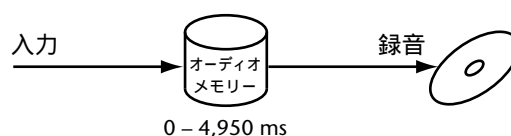
サンプリングレートコンバーターが作動していると、SRCインジケーターが点灯します。

SRCの設定は、44.1kHz以外のデジタルソースを録音するときは「ON」に、44.1kHzのデジタルソースを録音するときは「AUTO」に設定するとよいでしょう。SRCの設定は、ANALOG IN端子からのアナログ録音には影響しません。

注意: サンプリングレートが許容範囲の境界値にある場合にはSRCインジケーターが点滅することがあります。そのときは、SRCパラメーターを「ON」にして使用してください。

## インプットディレイを使う

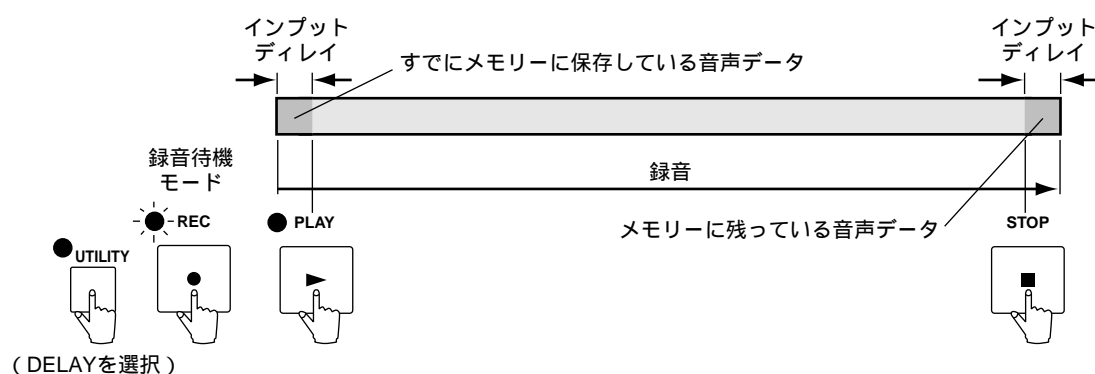
インプットディレイ機能は、録音を始める前の音声をメモリーに保存することで、録音開始直前の演奏を最大4.95秒までさかのぼって録音できます。録音が始まると、メモリーに保存されている音声から順次録音し、録音が終わるときは、メモリーに残っている音声を録音してからストップします。インプットディレイ機能は、演奏が始まる瞬間をあらかじめ予測できないライブイベントなどで、演奏の先頭を確実に録音したいときに非常に便利です。



インプットディレイ機能は、同期録音時にはオフになります。

インプットディレイ機能をオフにするには、UTILITY/DELAYパラメーターを“0”に設定します。

次図はインプットディレイの原理を示しています。



ディレイタイムは、UTILITY/DELAYパラメーターで設定します。

- [ UTILITY ] ボタンを押し“ DELAY ”を選びます。  
UTILITYインジケーターが点灯し、インプットディレイ設定がディスプレイに表示されます。
- [ PREV ] ボタン、または [ NEXT ] ボタンを押してディレイタイムを選びます。

設定	説明
0、66ms、132ms、198ms、264ms、...、4950ms	ディレイタイム( ミリ秒 ) ( 0 = オフ )

- ユーティリティー機能から抜けるには、[ UTILITY ] ボタンを押し続けるか他のボタンを押します。

録音中にインプットディレイ機能を使っていると、経過時間の表示は、実際の録音経過時間にインプットディレイタイムを加えた時間が表示されます。

## UV22を使う

米国Apogee Electronics社により開発されたUV22は、CDマスタリングに広く使われており、音質を損なうことなく20ビットや24ビットのデジタル信号を高品質な16ビットに変換できます。CDR1000はこの定評のあるUV22を搭載しています。

- 1 [ UV22 ] ボタンを押します。

UV22がオンになり、UV22インジケータが点灯します。

- 2 [ UV22 ] ボタンをもう一度押します。

UV22がオフになり、UV22インジケータが消灯します。

UV22を使って録音されたディスクは、他のディスクと同様に一般のCDプレーヤーで再生できます。

## コピービットの設定

デジタルコピーを許可するコピービット情報は、録音時に音声信号と共に書き込まれます。民生用のCDR・MD・DATレコーダーは、S/PDIFで入ってきたプロテクト情報によってデジタルコピーの制限を受けます。コピービットが「PROTECT」だとCOAXIALからのデジタルコピーはできません。コピービットが「PERMIT」になっていればCOAXIALからデジタルでコピーできます。コピービットが「ONCE」だとデジタルコピーは可能ですが、そのようにして作られたコピーからのデジタルコピーは禁止されます。

- 1 [ UTILITY ] ボタンを押し「COPY」を選びます。

UTILITYインジケータが点灯し、コピービット情報がディスプレイに表示されます。

- 2 [ PREV ] ボタン、または[ NEXT ] ボタンを押してコピービット情報を設定します。

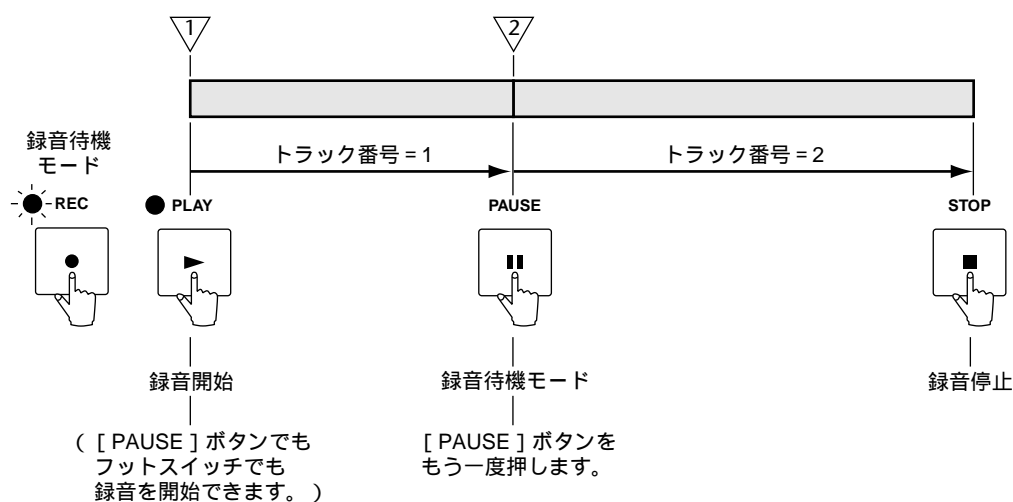
設定	説明
PERMIT	デジタルコピーに制限はなく、コピーされた物からさらにデジタルコピーを作ることができます。
PROTECT	デジタルコピーは禁止されます。
ONCE	コピーされた物を元にしてさらにデジタルコピーを作ることは禁止されます。

- 3 ユーティリティー機能から抜けるには、[ UTILITY ] ボタンを押し続けるか他のボタンを押します。

## 録音操作

ここでは録音手順について説明します。

次図は録音手順の概略です。



1 25ページで説明されているように録音の準備をします。

2 停止モードで [ REC ] ボタンを押し、録音待機モードにします。

録音待機モードになり、PAUSEインジケータが点灯し、RECインジケータが点滅します。ブランクディスクが挿入されているとトラック1に録音されます。録音途中のディスクのときは、録音可能な次のトラックが選ばれます。

タイムディスプレイ部には経過時間・残りの時間・トータル経過時間が表示されます。詳しくは19ページの「タイムディスプレイモードの設定」をお読みください。

録音待機モードではANALOG OUT・AES/EBU OUT・COAXIAL OUT・PHONES各端子を通して入力ソースをモニターできます。入力ソースの音量はレベルメーターで確認できます。

録音待機モードを解除するには [ STOP ] ボタンを押します。

3 録音ソースにANALOG INを選んでいるときは、録音レベルはレベルメーターを確認しながらREC LEVELツマミで設定します。

録音レベルは左右のチャンネルをそれぞれ独立して調整できます。AES/EBU INとCOAXIAL INの録音レベルは入力信号によって決められ、CDR1000側で設定することはできません。

レックミュート機能で、2秒間の無音部分(ミュート)をトラックの始めに挿入できます。詳しくは36ページの「2秒間のミュートを挿入する(レックミュート)」をお読みください。

- 4 [PLAY] ボタン、または [PAUSE] ボタンを押し録音を開始します。

録音が始まるとPAUSEインジケータが消灯し、RECインジケータとPLAYインジケータが点灯します。タイムディスプレイがカウントを始めます。フェードイン機能が設定されているとフェードイン処理が行われます。詳しくは38ページ「フェードインの設定」をお読みください。

オプションのフットスイッチでも録音をスタートできます。詳しくは49ページ「フットスイッチの使い方」をお読みください。
- 5 [TRACK INC] ボタンと [INDEX INC] ボタンを押し、トラック番号とインデックス番号を記録します。

詳しくは32ページ「マニュアル操作でトラック番号を書き込む」、33ページ「マニュアル操作でインデックス番号を書き込む」をお読みください。
- 6 [PAUSE] ボタンを押し録音を一時停止します。

録音待機モードになります。PAUSEインジケータが点灯し、RECインジケータが点滅、PLAYインジケータは消灯します。レックミュート機能やフェードアウト機能が設定されていると、[PAUSE] ボタンが押されたときにミュートやフェードアウトが動作します。詳しくは36ページ「2秒間のミュートを挿入する(レックミュート)」、39ページ「フェードアウトの設定」をお読みください。
- 7 [PLAY] ボタン、または [PAUSE] ボタンを押し録音を再開します。

録音が始まるとトラック番号が増えます。PAUSEインジケータが消灯し、RECインジケータは点灯したままです。PLAYインジケータが点灯しタイムディスプレイがカウントを始めます。フェードイン機能が設定されているとフェードイン処理が行われず。
- 8 [STOP] ボタンを押し録音を停止します。

レックミュート機能やフェードアウト機能が設定されていると、ミュートやフェードアウトが行われてから録音をストップします。RECとPLAYインジケータが消灯しPMAが書き込まれている間、“WAIT”がディスプレイに表示されます。

ディスクの最後に達すると録音は自動的に停止します。オプションのフットスイッチでも、停止できます。詳しくは49ページ「フットスイッチの使い方」をお読みください。

## 録音操作とボタンの働き

次の表は録音操作での各ボタンの働きを説明しています。

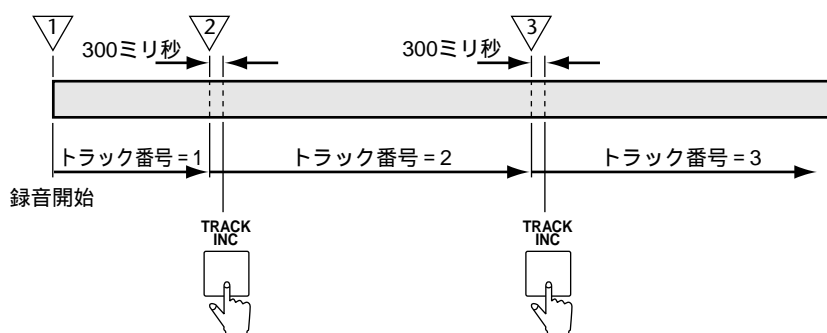
× = 変化なし、もしくは無効

ボタン	録音操作モード				
	停止中	録音待機中	録音中	ワントラック同期録音中	オールトラック同期録音中
[ STOP ]	×	録音待機モードはキャンセルされます。	録音は停止します。	録音は停止します。 (同期録音モードはキャンセルされます)	録音は停止します。 (同期録音モードはキャンセルされます)
[ PAUSE ]	×	録音が始まります。	録音待機モードになります。	録音は停止します。 (同期録音モードはキャンセルされます)	録音待機モードになります。 (同期録音モードはキャンセルされます)
[ PLAY ]	再生が始まります。	録音が始まります。	×	×	×
[ REC ]	録音待機モードになります。	×	×	×	×
[ REC MUTE ]	×	レックミュート待機モードになります。	レックミュート待機モードになります。	録音を一時停止モードにしたり停止すると、トラックの終わりに2秒間のミュートが挿入されます。	×
[ TRACK INC ]	×	×	トラック番号が上がります。	×	×
[ INDEX INC ]	×	×	インデックス番号が上がります。	×	×
[ SYNC REC ]	ワントラック同期録音待機モードになります。	×	×	×	×
フットスイッチ	×	録音が始まります。	録音が停止します。	×	×

## マニュアル操作でトラック番号を書き込む

トラック番号は録音中にマニュアル操作により書き込むことができます。[ TRACK INC ] ボタンを押すと1つ上がったトラック番号がディスクに書き込まれます。トラック番号は [ TRACK INC ] ボタンが押された時間より300ミリ秒前に書き込まれます。これはトラック番号を書き込みたいポイントを音を聞きながら探すときに、操作の遅れから来るずれを修正するためのものです。これにより、各トラックがスタートするポイントの直前にトラック番号が書き込まれることになります。

次図は録音中にトラック番号をマニュアル操作で書き込む手順の概略です。

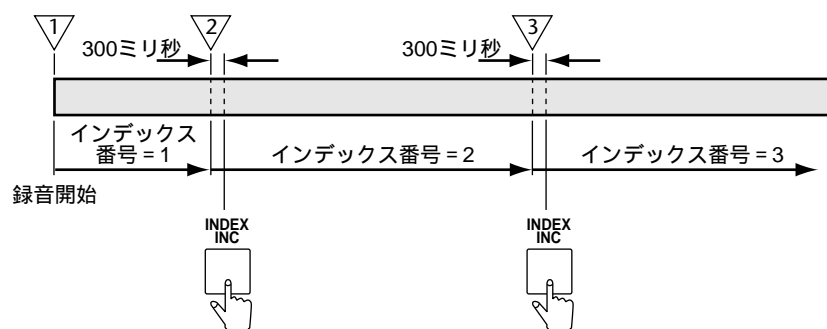


- 1 29ページの説明にしたがって、録音を開始します。  
挿入されているディスクがブランクディスクだと、トラック1が選ばれます。録音途中のディスクでは、次に録音可能なトラックが選ばれます。
- 2 録音中に [ TRACK INC ] ボタンを押すと、ディスプレイのトラック番号が1つ上がります。  
1つ上がったトラック番号がディスクに書き込まれます。  
オートレック中や同期録音時には、トラック番号のマニュアル操作はできません。  
AUTOインジケーターが点灯しているときは、[ TRACK INC ] ボタンは使えません。

## マニュアル操作でインデックス番号を書き込む

インデックス番号を録音中にマニュアル操作で書き込むことができます。[ INDEX INC ] ボタンを押すとディスプレイのインデックス番号は1つ上がり、インデックス番号がディスクに書き込まれます。インデックス番号は [ INDEX INC ] ボタンが押されたポイントから300ミリ秒前に書き込まれます。これはインデックス番号が書き込まれるべきポイントを音を聞きながら探すときに、操作の遅れによるずれを修正するためのものです。

次図は録音中にインデックス番号をマニュアル操作で書き込む手順の概略です。



- 1 29ページの説明にしたがって、録音を開始します。  
各トラックはインデックス番号1からスタートします。
- 2 録音中に [ INDEX INC ] ボタンを押すとディスプレイのインデックス番号が1つ上がります。  
1つ上がったインデックス番号がディスクに書き込まれます。  
オートレック中や同期録音時には、インデックス番号のマニュアル操作はできません。  
AUTOインジケーターが点灯しているときは [ INDEX INC ] ボタンは使えません。

## オートレックスタート/オートトラックインクリメントを使う

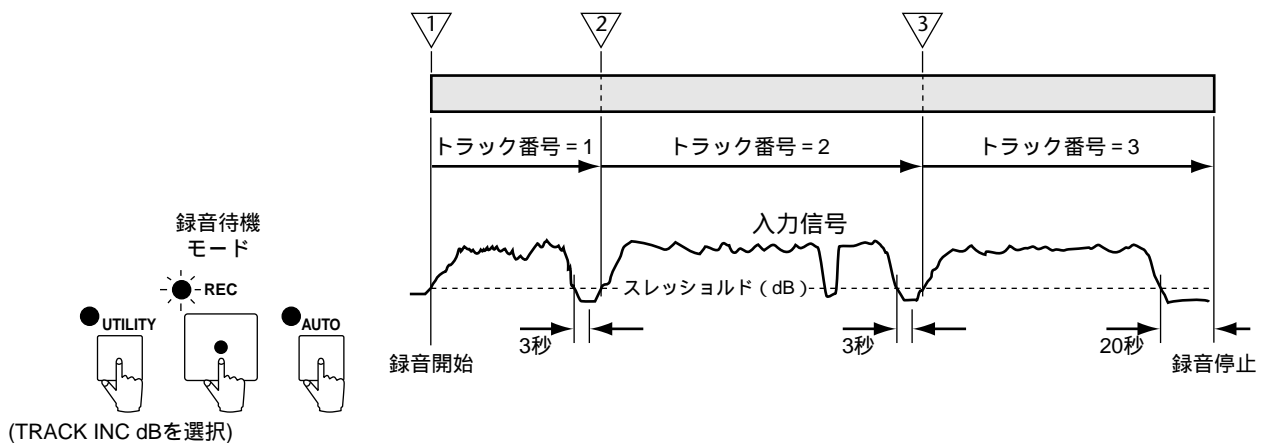
録音を自動的にスタートし、トラック番号も自動的に上げることができます。

オートレックスタート機能は、選んだ入力ソースの信号レベルが、設定したスレッシュールドレベルより大きくなると、録音待機モードから録音開始になります。

また、オートトラックインクリメント機能は、信号レベルがスレッシュールドレベルより小さい状態が3秒以上続いた後、信号レベルがスレッシュールドより再び大きくなると、自動で次のトラックに移りトラック番号を1つ上げます。

オートレックスタート/オートトラックインクリメント機能は同期録音と同時には使用できません。

次図はオートレックスタート/オートトラックインクリメント機能を使った録音手順の概略です。



スレッシュールドレベルは、UTILITY/TRACK INC dBパラメーターで設定します。

- 1 [UTILITY] ボタンを押し、“TRACK INC dB”を選びます。  
UTILITYインジケーターが点灯し、設定されているスレッシュールドレベルがディスプレイに表示されます。
- 2 [PREV] ボタン、または [NEXT] ボタンを押し、スレッシュールドレベルを設定します。

スレッシュールド	説明
- 30、- 35、- 40、- 45、- 50、 - 55、- 60、- 65、- 70、- 96、	オートレックスタート/オートトラックインクリメントを開始するスレッシュールドレベル。

- 3 ユーティリティー機能から抜けるには、[UTILITY] ボタンを押し続けるか、他のボタンを押します。
- 4 [REC] ボタンを押し、停止モードを録音待機モードにします。  
詳しくは29ページ「録音操作」をお読みください。

- 5 [ AUTO ]ボタンを押し、オートレックスタート/オートトラックインクリメント機能をオンにします。

AUTOインジケータが点灯します。

信号レベルが、設定したスレッシュホールドレベルより大きくなると、録音待機モードから録音開始に変わります。また、信号レベルがスレッシュホールドレベルより小さい状態が3秒以上続いた後、信号レベルがスレッシュホールドより再び大きくなると、トラックが変わりトラック番号が1つ上がります。

信号レベルが設定されたスレッシュホールドレベル以下の状態が20秒以上続くと、録音は停止します。録音を自動的に停止させたくない場合は、[ AUTO ]ボタンを押してオフにしてください。

- 6 オートレックスタート/オートトラックインクリメント機能をキャンセルするには、[ AUTO ]ボタンを再度押します。

AUTOインジケータが消灯します。

## 2秒間のミュートを挿入する(レックミュート)

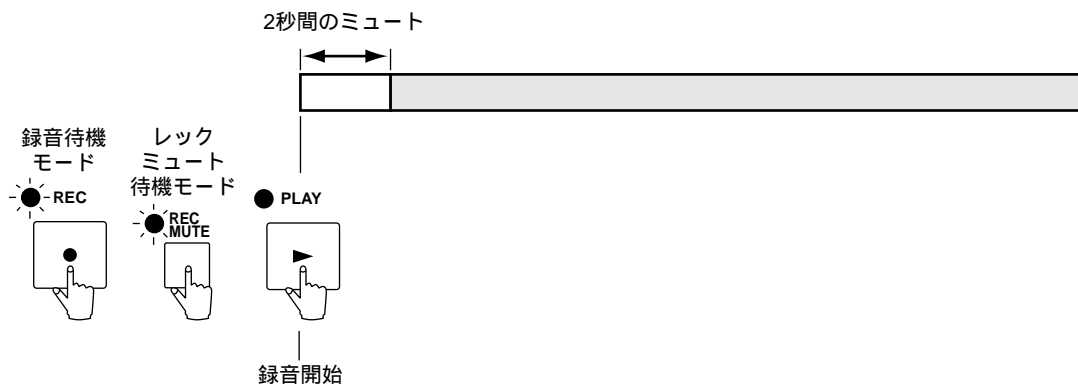
各トラックの先頭もしくは、終わりに2秒間のミュート(無音部分)を挿入できます。トラックの始めにミュートを挿入するには、録音待機モード時に[ REC MUTE ]ボタンを押します。トラックの終わりにミュートを挿入するには、録音している間に[ REC MUTE ]ボタンを押し、レックミュート待機にします。[ PAUSE ]ボタンや[ STOP ]ボタンが押されたり、フットスイッチによる、通常の動作で録音がストップすると、ミュートが挿入されます。フェードアウト機能が設定されているときは、フェードアウトした後にミュートが挿入されます。

レックミュート機能はワントラック同期録音( SYNC-REC 1 )時にも使用できますが、オールトラック同期録音( SYNC-REC ALL )時は使えません。

トラック1の先頭には自動でミュートが挿入されますので、そこには挿入することはできません。

### トラックの先頭にミュートを挿入する

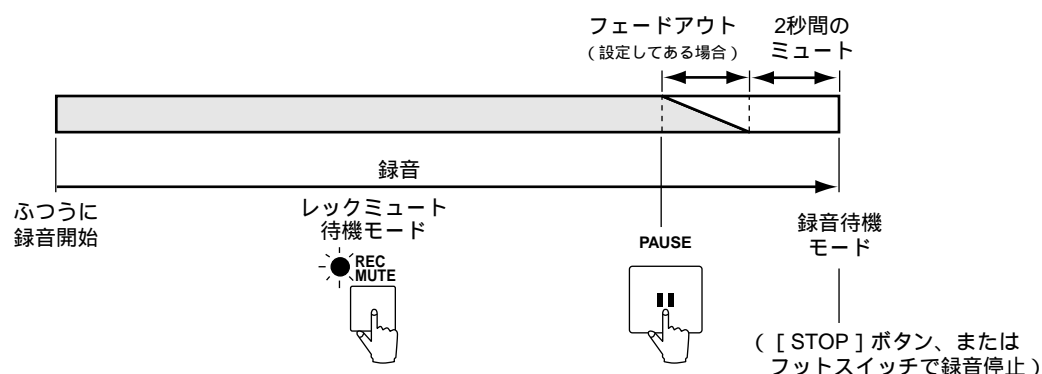
次図はトラックの先頭にミュートを挿入する手順の概略です。



- 29ページの説明にしたがって、録音待機モードにします。  
ワントラック同期録音時に録音待機モードにする方法については41ページをお読みください。
- 録音待機モードで[ REC MUTE ]ボタンを押します。  
レックミュート待機モードになり、2秒間のミュートが挿入可能になります。REC MUTE インジケーターが点滅します。  
ミュートは[ REC MUTE ]ボタンが押された時点で挿入されるわけではなく、録音待機モードから録音開始になった時点で挿入されます。
- 録音を開始します。  
2秒間のミュートが挿入され、REC MUTE インジケーターは消灯します。  
ミュートは各トラックの先頭に一度だけ挿入することができます。ミュートはインデックス番号0として録音されます。

## トラックの終わりにミュートを挿入する

次図はトラックの終わりにミュートを挿入する手順の概略です。



- 29ページの説明にしたがって、録音を開始します。  
ワントラック同期録音時にミュートを挿入する方法については41ページをお読みください。
- 録音中に [ REC MUTE ] ボタンを押します。  
レックミュート待機モードになり、REC MUTEインジケータが点滅します。  
ミュートは [ REC MUTE ] ボタンが押された時点で挿入されるわけではなく、[ PAUSE ] ボタン・[ STOP ] ボタン・フットスイッチ等によって録音が停止されたポイントの後に挿入されます。
- [ PAUSE ] ボタンを押し録音待機モードにします。または [ STOP ] ボタンやフットスイッチで録音を停止します。  
2秒間のミュートが挿入され、REC MUTEインジケータは消灯します。フェードアウト機能が設定されていると、フェードアウトの後にミュートが挿入されます。

## フェードインの設定

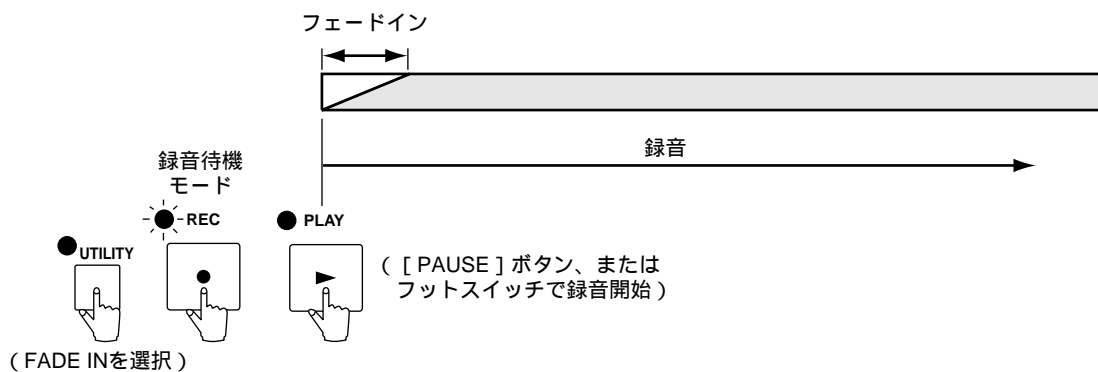
各トラックの先頭をフェードインすることができます。フェードインの長さは1秒単位で、1～10秒の範囲で設定できます。録音待機モードが[PLAY]ボタン・フットスイッチ等によって録音が始まった時点でフェードインが始まります。

フェードイン機能をオフにするには、UTILITY/FADE INパラメーターを“0”に設定します。

インプットディレイ機能が設定されているとき、フェードインはすでにメモリーに蓄えられている音声信号に対してフェードイン処理をします。詳しくは27ページ「インプットディレイを使う」をお読みください。

フェードイン機能は同期録音時には使えません。

次図はフェードインの手順の概略です。



UTILITY/FADE INパラメーターでフェードインタイムを設定します。

- 1 [UTILITY]ボタンで“FADE IN”を選びます。  
UTILITYインジケーターが点灯し、フェードイン設定がディスプレイに表示されます。
- 2 [PREV]ボタン、または[NEXT]ボタンを押してフェードインタイムを設定します。

設定	説明
0、1～10秒	秒単位でのフェードインタイム(0=オフ)

- 3 ユーティリティー機能から抜けるには、[UTILITY]ボタンを押し続けるか、他のボタンを押します。

録音待機モードから、[PLAY]ボタン・[PAUSE]ボタン・フットスイッチ等によって録音が始まるたびにフェードインが行われます。録音について詳しくは29ページをお読みください。

- 4 フェードイン機能をオフにするには、UTILITY/FADE INパラメーターを“0”に設定します。

## フェードアウトの設定

各トラックの終わりをフェードアウトすることができます。フェードアウトの長さは UTILITY/FADE OUTパラメーターを使い1秒単位で、1～10秒の範囲で設定できます。[ PAUSE ]ボタン・[ STOP ]ボタン・フットスイッチ等によって録音が停止した時点でフェードアウトが始まります。

フェードアウト機能をオフにするには、UTILITY/FADE OUTパラメーターを“0”に設定します。

フェードアウト機能は同期録音時には使えません。

次図はフェードアウトの手順の概略です。



UTILITY/FADE OUTパラメーターでフェードアウトタイムを設定します。

- 1 [ UTILITY ]ボタンで“FADE OUT”を選びます。  
UTILITYインジケーターが点灯しフェードアウト設定がディスプレイに表示されます。
- 2 [ PREV ]ボタン、または[ NEXT ]ボタンを押してフェードアウトタイムを設定します。

設定	説明
0、1～10秒	秒単位でのフェードアウトタイム(0=オフ)。

- 3 ユーティリティー機能から抜けるには、[ UTILITY ]ボタンを押し続けるか、他のボタンを押します。  
[ STOP ]ボタン・[ PAUSE ]ボタン・フットスイッチ等によって録音が停止された時点でフェードアウトが行われます。録音について詳しくは29ページをお読みください。  
フェードアウトが行われている間、“FADE OUT”がディスプレイに表示されます。この間、他のボタン操作は無効です。
- 4 フェードアウト機能をオフにするには、UTILITY/FADE OUTパラメーターを“0”に設定します。

## CD・MD・DATソースとの同期録音

COAXIAL( S/PDIF )からのデジタル信号は、音声信号だけでなく、トラック番号、インデックス番号、スタートID、スキップID等の情報も扱えるため、CDR1000はその情報を受け取ることによって、録音の開始、停止をすることができます。さらにはトラック番号、インデックス番号の管理も行えます。これはCD・MD・DATプレーヤーのソースを録音するときに便利です。

CDR1000には2種類の同期録音モードがあります。ワントラック同期録音とオールトラック同期録音です。

ワントラック同期録音モード( SYNC-REC 1インジケータ点灯 )では、CDR1000がトラック番号、またはスタートIDをCD・MD\*・DATのソース機器から受信すると個々のトラックごとに自動で同期録音を始めます。インデックス番号を受信すると対応してインデックス番号が上がり、次のトラック番号やスタートID、スキップIDを受信すると自動的に録音を停止します。

オールトラック同期録音モード( SYNC-REC ALLインジケータ点灯 )では、CD、MDの一枚全部、またはDATの複数のトラックを同期録音します。トラック番号やスタートIDを受信するとCDR1000は自動で同期録音を始めます。トラック番号とインデックス番号を受信すると対応するトラック番号とインデックス番号を上げ、CDやMDのソースの終わりに達すると20秒後に自動的に録音を停止します。

CDとMDプレーヤーはディスク上に記録されているトラック番号とインデックス番号をそれらの再生にともなって出力します。CDR1000ではトラック番号はインデックス番号が0から1に変わったときに上がります。それらはトラックのスタートを示しており、前のトラックの終わりを示しているものではありません。

DATプレーヤーはテープに記録されているスタートIDとスキップIDをテープの再生にそって出力します。スキップIDはオールトラック同期録音モードでは無視されますが、ワントラック同期録音モードでは、スキップIDを受け取ると録音はストップします。録音は瞬間的に始まるわけではありませんので、DATから録音するときは、スタートIDがトラックの始まりのわずかに前に位置するようにして、トラックの最初の部分が欠けないように注意します。

CDR1000は、CD・MD\*・DATプレーヤー等からトラック番号やスタートIDを受信すると録音をスタートします。同期録音は再生機器が再生中である場合にはスタートできないので、CD・MD\*プレーヤーを録音したいトラックの先頭で一時停止かストップしなければいけません。DATプレーヤーでは、スタートIDの前から再生を開始してください。

同期録音中、20秒以上入力信号が受信されない場合、自動的に録音は停止します。

AES/EBUデジタル信号はトラック番号、インデックス番号、スタートID、スキップID等の各情報を出力しないので、同期録音するには、入力ソースにCOAX( COAXIAL IN端子 )を選びます。

レックミュート機能はワントラック同期録音で使うことができますが、オールトラック同期録音では使えません。フェードイン機能とフェードアウト機能は、どちらのモードでも使えません。

オートファイナライズ機能は同期録音がストップしたときに自動的にディスクをファイナライズするために使用します。

\* MDソースに限り、同期録音は音の立ち上がりの検出により開始します。  
また、インデックス番号には対応しません。

## ワントラック同期録音( SYNC-REC 1 )

ここではワントラック同期録音( SYNC-REC 1 )について説明します。

次図はワントラック同期録音( SYNC-REC 1 )の手順の概略です。



- 1 25ページで説明されているように録音の準備をします。入力ソースを“ COAX ” ( COAXIAL IN端子 )に設定し、以下の手順にしたがってください。
- 2 停止モードから[ SYNC REC ]ボタンを押します。

録音待機モードになり、PAUSEインジケータが点灯し、RECインジケータが点滅し、SYNC-REC 1インジケータが点灯します。ブランクディスクの場合はトラック1に録音されます。録音途中のディスクの場合、録音可能な次のトラックが選ばれます。

入力ソースのデジタル信号にCDR1000がロックすると、LOCKインジケータが点灯します。LOCKインジケータが消灯や点滅しているときは同期録音はできません。詳しくは25ページ「入力ソースの選択」をお読みください。

録音待機モードでは、設定された入力ソースはANALOG OUT、AES/EBU OUT、COAXIAL OUT、PHONESの各端子を通してモニターできます。入力ソースの音量はCDR1000のレベルメーターで確認できます。

ワントラック同期録音は、[ STOP ]ボタンを押すといつでも解除できます。

レックミュート機能を使って2秒間のミュートをトラックの先頭に挿入できます。

オートファイナライズ機能を使い、同期録音が停止したときに自動的にディスクをファイナライズできます。録音待機モード時に[ SYNC REC ]ボタンを押すとオートファイナライズ機能がオンになり、“ AUTOFINALIZE ”がディスプレイに表示されます。オートファイナライズを解除するには、もう一度[ SYNC REC ]ボタンを押します。詳しくは44ページの「ディスクのファイナライズ」をお読みください。

- 3 CD・MD・DATプレーヤーで録音したいトラックを再生できる状態にします。  
トラック番号やスタートIDを受信するとCDR1000は録音を始めます。同期録音はソース機器の再生中に開始できませんので、CDやMDは録音されるトラックの先頭で一時停止か、停止になっていることを確認してください。

## 4 CD・MD・DATプレーヤーの再生を始めます。

録音がスタートし、PAUSEインジケータが消灯し、RECインジケータが点灯に変わります。PLAYインジケータが点灯し、タイムディスプレイがカウントを始めます。新しいインデックス番号を受け取るとインデックス番号は1つ上がります。

注意：同期録音中、20秒以上入力信号が受信されない場合、自動的に録音は停止します。

次のトラック番号、スタートID、スキップIDを受信したり、[ PAUSE ]ボタンや[ STOP ]ボタンを押すとCDR1000は録音を停止しワントラック同期録音モードを解除します。

レックミュート機能が設定されている場合は、その処理を行います。SYNC-REC 1インジケータが消灯し、全ての点灯していたインジケータも消灯します。その後PMAが書き込まれている間、“ WAIT ”がディスプレイに表示されます。

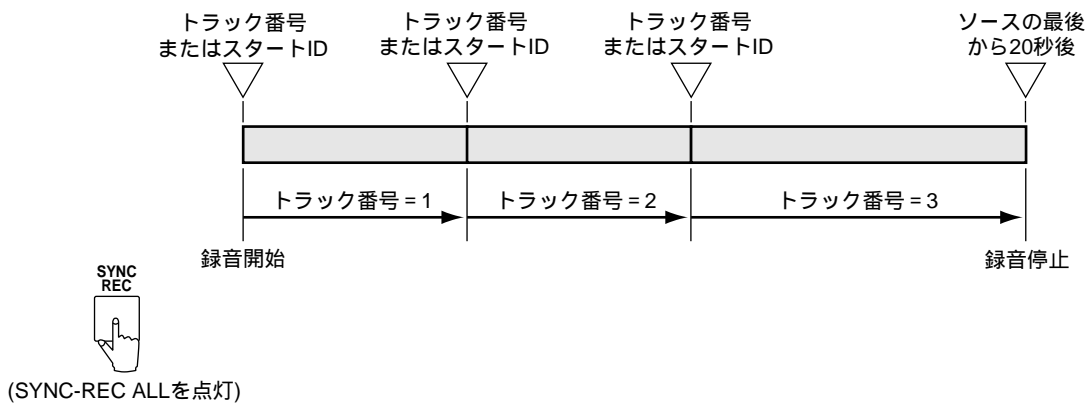
ワントラック同期録音で他のトラックを録音する場合は、手順3と4を繰り返します。

オートファイナライズ機能がオンに設定されていると、ディスクは自動的にファイナライズされます。

## オールトラック同期録音( SYNC-REC ALL )

ここではオールトラック同期録音( SYNC-REC ALL )について説明します。

次図はオールトラック同期録音( SYNC-REC ALL )の手順の概略です。



1 25ページの説明にしたがって録音の準備をします。入力ソースを“ COAX ” ( COAXIAL IN端子 )に設定し、以下の手順にしたがってください。

2 停止モードから[ SYNC REC ]ボタンを押します。

録音待機モードになり、PAUSEインジケータが点灯し、RECインジケータが点滅し、SYNC-REC 1インジケータが点灯します。ブランクディスクの場合はトラック1に録音されます。録音途中のディスクの場合、録音可能な次のトラックが選ばれます。

- 3 [PREV]ボタン、または[NEXT]ボタンを押し、“SYNC-REC ALL”(オールトラック同期録音モード)を選びます。

SYNC-REC ALLインジケータが点灯します。

オールトラック同期録音は、[STOP]ボタンを押すいつでも解除できます。

入力ソースのデジタル信号にCDR1000がロックするとLOCKインジケータが点灯します。LOCKインジケータが消灯や点滅しているときは同期録音はできません。詳しくは25ページ「入力ソースの選択」をお読みください。

録音待機モードでは、設定された入力ソースはANALOG OUT・AES/EBU OUT・COAXIAL OUT・PHONESの各端子を通してモニターできます。入力ソースの音量はCDR1000のレベルメーターで確認できます。

オートファイナライズ機能を使えば、同期録音が停止したときに、自動的にディスクをファイナライズできます。録音待機モード中に、[SYNC REC]ボタンを押しオートファイナライズ機能をオンにします。“AUTOFINALIZE”がディスプレイに表示されます。オートファイナライズを解除するには、もう一度[SYNC REC]ボタンを押します。詳しくは44ページの「ディスクのファイナライズ」をお読みください。

- 4 CD・MD・DATプレーヤーを再生します。

録音が始まり、PAUSEインジケータが消灯し、RECインジケータが点灯に変わり、PLAYインジケータが点灯します。タイムディスプレイがカウントを始めます。トラック番号やインデックス番号が受信されるとトラック番号やインデックス番号は1つ上がります。

注意：同期録音中、20秒以上入力信号が受信されない場合、自動的に録音は停止します。

[STOP]ボタンや[PAUSE]ボタンが押されると、同期録音は解除されます。また、ソースのCDやMDが最後まで再生されると、20秒後に自動的に録音は停止します。CDR1000は録音待機モードにはならず、点灯していた全てのインジケータが消灯します。

オートファイナライズ機能がオンだと、自動的にファイナライズされます。

## ディスクのファイナライズ

ファイナライズとは、PMAに記録されたTOC情報をディスクのTOCエリアに書き込むことです。

ファイナライズしていないCD-Rディスクは、CD-Rレコーダーで再生できますが、一般のCDプレーヤーではファイナライズするまで再生できません。一度ファイナライズされたCD-Rディスクには追加録音はできません。

CD-RWディスクはファイナライズしても内容を消去・変更することができます。

### 1 停止モードで、[ FINALIZE ] ボタンを押します。

ファイナライズ待機モードになり、RECインジケータが点滅し、“FINALIZE”がディスプレイ上で点滅します。4秒以内に次の手順を行わないと、ファイナライズ待機モードは解除されます。

### 2 [ PLAY ] ボタンを押します。

ファイナライズが始まり“FINALIZING”と表示されます。RECインジケータが点灯し、PLAYインジケータは点滅します。

ファイナライズは4倍速(4倍速書き込み対応ディスクの場合)で行われ、処理終了までの残り時間が分・秒でディスプレイに表示されます。CDR1000の他の機能を使いたいときはファイナライズが終了してから行ってください。

ファイナライズが終了するとRECインジケータとPLAYインジケータが消灯し“FINALIZING”の表示は消えます。

## ディスクの消去( CD-RWディスクのみ )

録音や、ファイナライズされたCD-RWディスクは、トラックイレース・ディスクイレース・イニシャライズの3つの方法で消去できます。

トラックイレースはディスクの最後に録音されたトラックの管理データを消去します。

トラックイレースは一度に1つのトラックしか消去しないので、複数のトラックを消去したいときは、トラックイレースを繰り返してください。

ディスクイレースは全てのトラックの管理データを消去し、ディスク全体を再び使用できるようにします。

イニシャライズは全てのトラックの管理データだけでなく、プログラム領域の消去を行うため処理時間が長くなります。データを記録していたディスクに録音するときは、イニシャライズでの消去方法をお勧めします。

### 1 停止モードで、[ ERASE ]ボタンを押します。

イレース待機モードになり、選んだイレース機能が<sup>①</sup> ERASE xxxx ( xxxxは消去モード ) とディスプレイに点滅表示されます。RECインジケータが点滅します。

4秒以内に次の手順を行わないと、イレース待機モードは解除されます。

### 2 [ PREV ]ボタン、または[ NEXT ]ボタンを押して消去モードを選びます。

消去モード	説明
TRACK	最後に録音されたトラックを消去します。
DISC	ディスク上の全てのトラックを素早く消去します。
INITIALIZE	ディスク上の全てのトラックを消去し、ディスクを初期化します。

選ばれた消去モードがディスプレイに表示されます。

イレース待機モードを解除するには、[ STOP ]ボタンを押します。

### 3 [ PLAY ]ボタンを押し消去を始めます。

“ ERASING ”がディスプレイに表示されます。RECインジケータが点灯し、PLAYインジケータが点滅します。

消去は4倍速( 4倍速書き込み対応ディスクの場合 )で行われ、処理終了までの残り時間が、分と秒でディスプレイに表示されます。CDR1000の他の機能を使いたいときは、消去作業が終了してから行ってください。

消去が終るとRECとPLAYのインジケータは消灯し、“ ERASING ”がディスプレイから消えます。

イニシャライズを実行中にエラーメッセージが表示されたときは、再度イニシャライズを行ってください。

オートアンファイナライズ機能:

CDR1000は、ファイナライズされたCD-RWディスクでも、音楽トラックを追加録音できるように、オートアンファイナライズ機能が組み込まれています。

注意: オートアンファイナライズ機能が働いているときには“ WAIT ”が1分間近くディスプレイに表示されますが、故障ではありません。

## 第6章 その他の機能

### AES/EBU出力端子のクロック周波数の選択

UTILITY/CLK SELパラメーターがINTに設定されているときは、AES/EBU OUT端子からサンプリングレート44.1kHzのデジタル信号が出力されます。ただし、UTILITY/CLK SELパラメーターがWORD、AES、またはCOAXに設定されているときは、AES/EBU OUT端子から出力される信号を外部のワードクロックに同期させることが可能です。このとき、現在選択されているワードクロックのソースが44.kHz以外の周波数で動作していれば、CDR1000に内蔵されたサンプリングレートコンバーターにより、CDの44.1kHzの信号がその周波数に合わせて変化します。

COAXIAL OUT端子は、常に44.1kHzのデジタル信号で出力します。

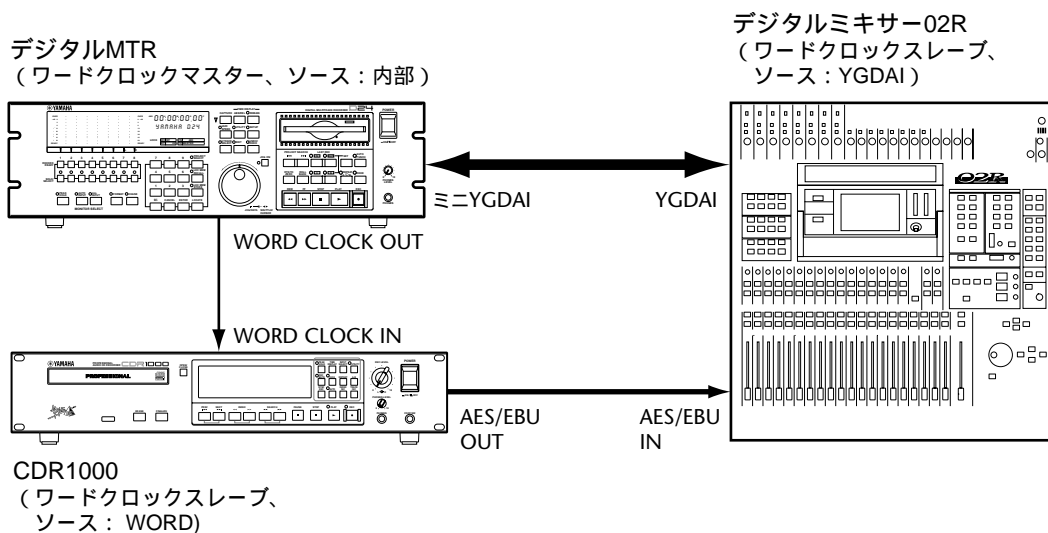
AES/EBU再生クロックはUTILITY/CLK SELパラメーターで設定します。

- 1 [ UTILITY ] ボタンを押し、“ CLK SEL. ”を選びます。  
UTILITYインジケーターが点灯し、再生クロックの設定がディスプレイに表示されます。
- 2 [ PREV ] ボタン、または[ NEXT ] ボタンで再生クロックを選びます。

表示	内容
INT	AES/EBU OUTは、内部クロック( 44.1kHz固定 )で出力します。
WORD	AES/EBU OUTは、WORD CLOCK IN端子から入力したワードクロック周波数で出力します。
AES	AES/EBU OUTは、AES/EBU IN端子から入力したワードクロック周波数で出力します。ただし、COAXを入力ソースに選択している場合は、AES/EBU OUTから録音モニター出力はできません。
COAX	AES/EBU OUTは、COAXIAL IN端子から入力したワードクロック周波数で出力します。ただし、AES/EBUを入力ソースに選択している場合は、AES/EBU OUTから録音モニター出力はできません。

- 3 ユーティリティ機能から抜けるには、[ UTILITY ] ボタンを押し続けるか、他のボタンを押します。

次ページの図は、CDR1000をCDプレーヤーとして、デジタルMTRとデジタルミキサーに組み合わせた例です。デジタル信号はCDR1000からデジタルミキサーにAES/EBU接続で流れています。この例ではデジタルMTRがワードクロックマスターで、デジタルミキサーとCDR1000はワードクロックスレーブです。通常のCDプレーヤーから素材を取り込む場合は、CDプレーヤーがワードクロックマスター、デジタルMTRやデジタルミキサーがワードクロックスレーブとなるように、ワードクロックの設定を変更しなければなりません。CDR1000は外部ワードクロックに同期できるので、システムのワードクロックマスターを変えずに済みます。



注意：モニター時に“OUT OF RANGE”が表示された場合には、一旦停止状態にしてから周波数を再設定してください。

## デジタルアウト(AES/EBU OUT、COAXIAL OUT) 端子からの出力

AES/EBU OUT端子から出力する信号は、再生・モニター音・AES/EBU INのいずれかを選択できます。COAXIAL OUT端子も同様です。

この機能は複数のCDR1000を使って同じソースを録音するときに便利です。

- 1 [UTILITY] ボタンを押して「D-OUT」を選びます。  
UTILITYインジケータが点灯し、デジタルアウトの出力設定がディスプレイに表示されます。
- 2 [PREV] ボタン、または[ NEXT ] ボタンで「NORMAL」または「THRU」を選びます。

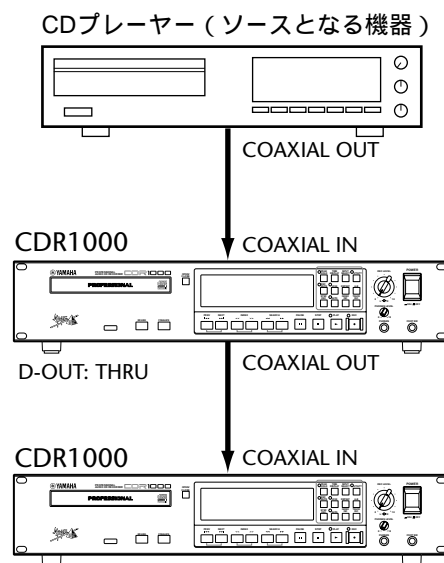
出力設定	内容
NORMAL	再生・モニター音を出力します。
THRU	AES/EBU IN端子、COAXIAL IN端子からの信号を出力します。

- 3 ユーティリティ機能から抜けるには、[UTILITY] ボタンを押し続けるか、他のボタンを押します。

右の例は、複数のCDR1000を使ってディスクの複製を行うシステムです。ソースとなる機器はCOAXIAL出力のある一般的なCDプレーヤーです。MD・DATプレーヤーでも構いません。全てのCDR1000の出力設定を、UTILITY/D-OUTパラメーターで「THRU」に設定します。COAXIAL IN端子に入力したデジタル信号は、COAXIAL OUT端子を通して次のCDR1000に入力されます。

CDプレーヤーからのトラック番号、インデックス番号は音声信号と一緒に送られ、一度で複数のCDR1000で同期録音できます。詳しくは40ページをお読みください。

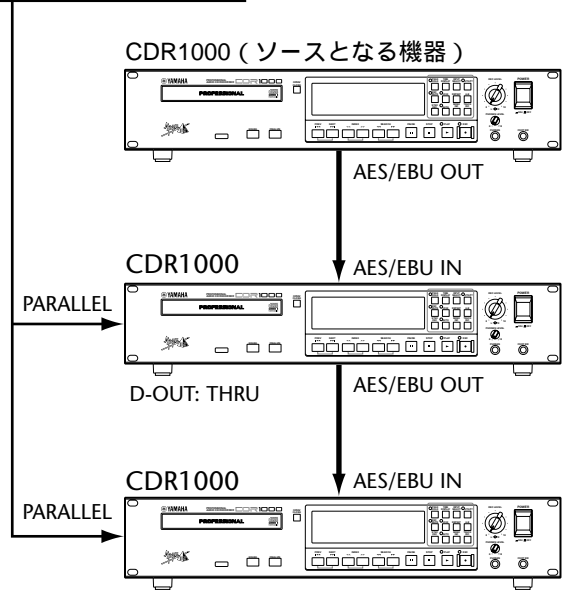
接続には75Ωのデジタル同軸ケーブルを使います。アナログオーディオケーブルを使用するとデジタル信号の送信時にエラーになる恐れがあります。



この例は、上記のCOAXIAL接続の代わりにAES/EBUで接続した例です。各CDR1000は、各PARALLEL端子で接続すると一括して操作できます。PARALLEL端子接続で操作できる機能は、再生、一時停止、停止、録音待機、トラックインクリメントです。詳しくは51ページをお読みください。

PARALLEL接続で一括操作

- ・再生
- ・一時停止
- ・停止
- ・録音待機
- ・トラックインクリメント



## フットスイッチの使い方

別売のフットスイッチ(FC5)を接続すると、再生や録音の停止をフットスイッチでも操作できます。フットスイッチからの操作は作業中のモードにより変化します。

作業中のモード	フットスイッチからの操作
停止	選ばれているトラックから再生します。 <sup>†1</sup>
再生	再生をストップします。
録音待機	録音をスタートします。 <sup>†2</sup>
録音	録音をストップします。 <sup>†2</sup>

†1. 再生する前に [PREV] ボタンと [NEXT] ボタンでトラックを選べます。

†2. 同期録音中は、フットスイッチからの操作はできません。

## リモートコントローラーをオフにする

リモートコントローラーでの誤作動を防ぎたいときに、本体のREMOTEパラメーターを“OFF”に設定すると、リモートコントローラーからの操作を受け付けなくします。設定はUTILITY/REMOTEパラメーターで行います。

- 1 [UTILITY] ボタンで“REMOTE”を選びます。

UTILITYインジケーターが点灯し、リモートコントローラーの設定がディスプレイに表示されます。

- 2 [PREV] ボタン、または[NEXT] ボタンで“ON”または“OFF”を選びます。

表示	内容
ON	リモートコントローラーから操作できます。
OFF	リモートコントローラーからの操作は受け付けなくなります。

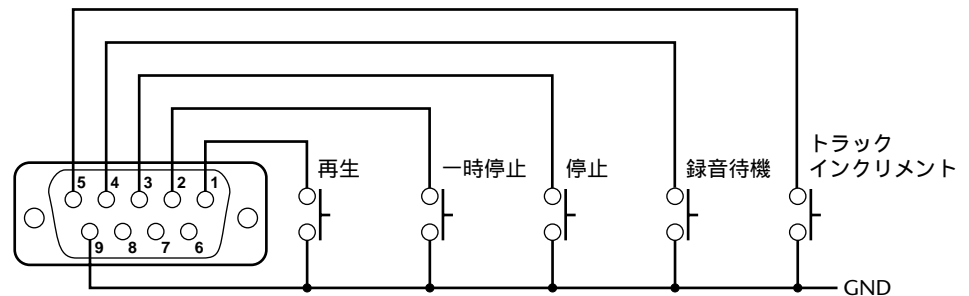
- 3 ユーティリティ機能から抜けるには、[UTILITY] ボタンを押し続けるか、他のボタンを押します。

## PARALLEL端子

PARALLEL端子はCDR1000の機能にアクセスするためのインターフェイスです。外部機器から受け付けるのは、再生、一時停止、停止、録音待機、トラックインクリメントです。スイッチ、結線をカスタムメイドすれば、複数のCDR1000を使った同時録音やディスクコピーシステム等で一括操作ができます。

また、外部機器をコントロールするのは、再生、一時停止、停止です。

次図は、入力信号の接続配線図を示します。



### PARALLEL端子のピン配列

ピン	入/出力	信号
1	入力	再生
2		一時停止
3		停止
4		録音待機
5		トラックインクリメント
6	出力	再生
7		一時停止
8		停止
9		GND

- ・ 入力信号には50ミリ秒以上のパルス幅が必要です。
- ・ 出力信号は500ミリ秒のパルスが1回出力されます。
- ・ すべての出力は“オープンコレクター”になっています。

## 故障かな？と思ったら

電源が入らない。

- 電源コードは電源コンセントに接続されていますか？詳しくは16ページの「電源コードの接続」をお読みください。
- CDR1000の[ POWER ]スイッチはオンになっていますか？詳しくは16ページの「電源の入れ方」をお読みください。
- 以上の2点を確認しても電源が入らないときは、お買い上げの販売店またはお近くのヤマハサービスセンターにご相談ください。

リモートコントローラーが動作しない。

- リモートコントローラーに電池は入っていますか？詳しくは19ページの「リモートコントローラーの操作」をお読みください。
- UTILITY/REMOTEパラメーターが「ON」になっていますか？詳しくは19ページの「リモートコントローラーをオフにする」をお読みください。
- 電池が切れている可能性があります。新しい電池と交換してください。詳しくは25ページの「リモートコントローラーの操作」をお読みください。

LOCKインジケーターが点滅する。

- デジタル入力信号がロックしていません。この状態では録音操作はできません。詳しくは25ページの「入力ソースの選択」をお読みください。

[ UTILITY ] 罫- を押し続けているのにユーティリティから抜けられない。

- ユーティリティから抜けるには[ UTILITY ] 罫- を2秒以上押し続けてください。

ANALOG INからの信号をモニターできない。

- ANALOG IN端子に正しく接続されていますか？入力ソースの設定はANALOGになっていますか？録音待機モードにして、REC LEVELツマミで録音レベルを調整してください。

ANALOG INからの入力信号のレベルが低すぎたり、高すぎたりする。

- 接続した機器に合わせてアナログ入力感度スイッチを切り替えて、REC LEVELツマミで録音レベルを調整してください。

録音待機モードにできない。

- ファイナライズされたCD-Rディスクには録音できません。録音できるディスクを挿入してください。詳しくは25ページの「録音準備」をお読みください。

トラック番号をマニュアルで設定できない。

- オート録音や同期録音のときにはトラック番号をマニュアルでは設定できません。詳しくは22ページの「マニュアル操作でトラック番号を書き込む」をお読みください。

インデックス番号をマニュアルで設定できない。

- オート録音や同期録音のときにはインデックス番号をマニュアルでは設定できません。詳しくは33ページの「マニュアル操作でインデックス番号を書き込む」をお読みください。

オートレックススタート/オートトラックインクリメント機能で、トラック番号が自動的に上がらない。

- トラック間の無音部分が短すぎると、オートレックススタート/オートトラックインクリメントがうまく機能しないことがあるので、UTILITY/TRACK INC dBの値をより小さく設定してください。詳しくは34ページの「オートレックススタート/オートトラックインクリメントを使う」をお読みください。

オートレックススタート/オートトラックインクリメント機能で、トラック番号が無音状態の間に上がらない。

- 無音部分が長く含まれている曲では、オートレックススタート/オートトラックインクリメントがうまく機能しないことがあるので、UTILITY/TRACK INC dBの値をより大きく設定してください。詳しくは34ページの「オートレックススタート/オートトラックインクリメントを使う」をお読みください。

オートレックススタート/オートトラックインクリメント録音しているときに、録音がストップしてしまう。

- 設定されたスレッシュホールドレベルより小さな音が20秒以上続くと、録音をストップします。詳しくは34ページの「オートレックススタート/オートトラックインクリメントを使う」をお読みください。

ミュートを挿入できない。

- 各トラックの始めと終わりにミュートを挿入できるのは、それぞれ1度だけです。
- オールトラック同期録音( SYNC REC ALL )時は、ミュートを挿入できません。詳しくは36ページの「2秒間のミュートを挿入する(レックスミュート)」をお読みください。

フェードイン/フェードアウトができない。

- ・フェードイン/フェードアウトの設定を録音待機モードにする前に設定しておく必要があります。フェードイン/フェードアウトは同期録音しているときには使うことができません。詳しくは38ページの「フェードインの設定」と39ページの「フェードアウトの設定」をお読みください。

SRCインジケータが録音時に点灯する。

- ・SRCインジケータはサンプリングレートコンバーターが作動しているときに点灯します。詳しくは26ページの「サンプリングレートコンバーターを使う」をお読みください。

CD・MDからの同期録音のときに自動的に録音が始まらない。

- ・CD・MDプレイヤーは停止または一時停止の状態にしてください。同期録音はCD・MDプレイヤーの再生中には録音をスタートできません。詳しくは40ページの「CD・DAT・MDソースとの同期録音」をお読みください。

ワントラック同期録音(SYNC REC 1)で、DATから録音しているときにトラックの途中で録音がストップしてしまう。

- ・CDR1000はトラック番号・スタートID・スキップIDを受信すると録音をストップします。録音ソースのトラックの途中でスキップIDがないか確認してください。詳しくは40ページの「CD・MD・DATソースとの同期録音」をお読みください。

DATからの同期録音で、トラックの先頭が切れてしまう。

- ・DATのスタートIDがそれぞれのトラックのスタートより前にあるか確認してください。詳しくは40ページの「CD・DAT・MDソースとの同期録音」をお読みください。

同期録音が予期せずにストップする。

- ・入力信号が20秒以上途切れると同期録音は自動的に録音をストップします。詳しくは40ページの「CD・MD・DATソースとの同期録音」をお読みください。

## エラーメッセージ

ディスプレイにエラー番号が表示されたときは、次の表に従ってください。

エラー番号	備考
0XXXXX	注1
1XXXXX	注2
2XXXXX	
3XXXXX	
4XXXXX	
5XXXXX	

(注1) ディスクトレイを開閉してもエラーが解除できないときは、電源を入れ直してください。電源を入れ直してもエラーが発生するときは、お近くのヤマハサービスセンターにご相談ください。

(注2) 電源を入れ直してもエラーが発生するときは、お近くのヤマハサービスセンターにご相談ください。

## 仕様

録音媒体	CD-R、CD-RW	
再生媒体	CD、CD-R、CD-RW	
サンプリング周波数	44.1kHz	
録音解像度	16ビットリニア	
コンバーター	A/D	20ビット・64倍オーバーサンプリング
	D/A	20ビット・128倍オーバーサンプリング
周波数特性	20Hz ~ 20kHz	
トラック	最大99トラック	
インデックス	最大99インデックス	
SRQ(サンプリング周波数コンバーター)	30 ~ 50kHz	
16ビットエンコーディング	UV22	
SN比	97dB	
インプットディレイ	0 ~ 4,950ms	
フェードイン/フェードアウトタイム	0 ~ 10秒	
同期録音	CD、MD、DAT	
リピート再生	1トラック、全トラック、A-B	
ロケート	PREV、NEXT、INDEX、SEARCH、ダイレクト選択	
ディスプレイ	タイプ	大型蛍光表示管
	文字	12文字 × 1行
	タイム	分、秒
	ディスプレイモード	ELAPSE、REMAIN、TOTAL
	トラック	0 ~ 99
	インデックス	0 ~ 99
	レベルメーター	16セグメント × 2
電源	100V、50/60Hz	
消費電力	33W	
最大外形寸法(W × H × D)	480 × 101 × 389mm	
重量	8kg	
動作保証温度	5 ~ 35	
付属品	電源コード、リモートコントローラー、電池 × 2、輸送用保護パッド、取扱説明書	
オプション	フットスイッチ(Yamaha FC5)	

## アナログ入力仕様

入力端子	適合インピーダンス	定格入力レベル	最大入力レベル	使用コネクタ
ANALOG IN <sup>†1</sup>	20k	- 10dBV/+4dB <sup>†2</sup>	+ 18dB/+ 4dBV <sup>†3</sup>	XLR-3-31タイプ (バランス型) <sup>†4</sup>

†1. 20ビット・64倍オーバーサンプリングA/Dコンバーター

†2. 可変

†3. 定格録音レベル

†4. バランス型 (pin 1: GND、pin 2: ホット、pin 3: コールド)

\* 0dB = 0.775Vrms

\* - 10dBVレベルの時、0dBV = 0dBV

## アナログ出力仕様

出力端子	適合インピーダンス	定格出力レベル	最大出力レベル	使用コネクタ
ANALOG OUT <sup>†1</sup>	150	+4dB	+18dB	XLR-3-32タイプ (バランス型) <sup>†2</sup>
PHONES	40	7mW	100mW	ステレオフォンジャック (アンバランス型) <sup>†3</sup>

†1. 20ビット・128倍オーバーサンプリングD/Aコンバーター

†2. バランス型 (pin 1: GND、pin 2: ホット、pin 3: コールド)

†3. アンバランス型 (Tip: 左、Ring: 右、スリーブ: GND)

\* 0dB = 0.775Vrms

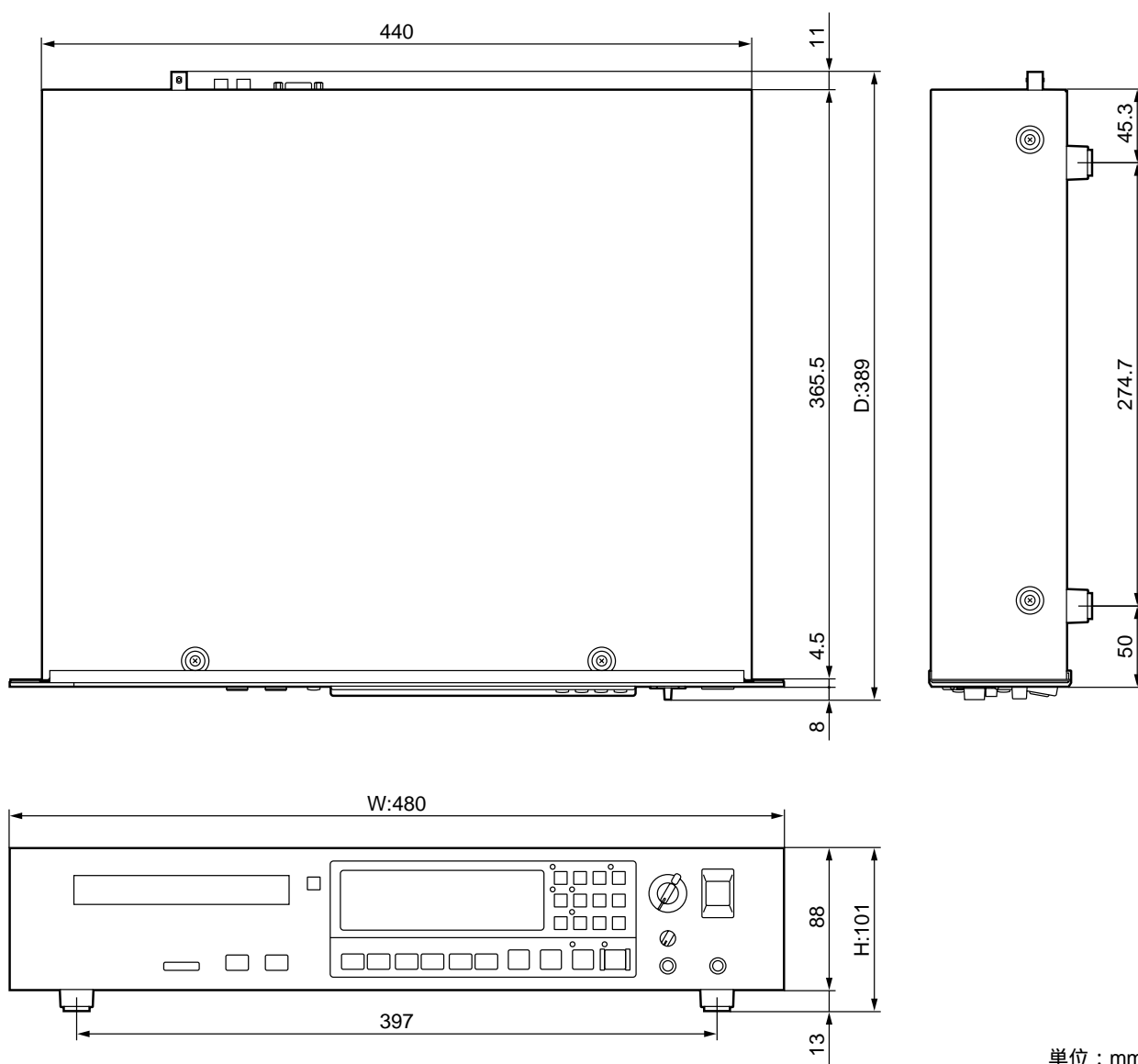
## デジタルオーディオ入力仕様

入力端子	フォーマット	レベル/インピーダンス	使用コネクタ
AES/EBU IN	AES/EBU	110	XLR-3-31タイプ
COAXIAL IN	IEC-60958 民生用	0.5V pp( 75 )	RCAピンジャック

## デジタルオーディオ出力仕様

出力端子	フォーマット	レベル/インピーダンス	使用コネクタ
AES/EBU OUT	AES/EBU	110	XLR-3-32タイプ
COAXIA OUT	IEC-60958 民生用	0.5V pp( 75 )	RCAピンジャック

## 寸法図



仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。  
この製品は電気用品取締法の定める技術基準に適合しています。

## 用語集

CD(Compact Disc) 120mmの光ディスクです。約74分のデジタルステレオ信号(16bit-44.1kHz)を録音できます。

CD-R(Compact Disc Recordable) 1度だけ書き込み可能な120mmの光ディスクです。

CD-RW(Compact Disc Rewritable) 最大500回書き換え可能な光ディスクです。ファイナライズをした後でも録音できます。

OPC(Optimum Power Control) CD-RやCD-RWでの録音の度に最適なレーザー出力を決定するための自動調整です。

PMA(Program Memory Area) CD-RやCD-RWでトラック情報を一時的に記録するための領域です。

TOC(Track Table Of Contents) TOCには最大トラック番号、トラック開始時間、トータル時間の情報が含まれていて、ディスクをCDプレーヤーに挿入するごとに読まれます。

オレンジブック(Orange Book) CD-RやCD-RWのための規格書です。

サンプリングレート A/D変換中にアナログオーディオ信号がサンプリングされる1秒あたりの回数。各サンプルの値はデータワードとして保存される。標準となるサンプリングレートは44.1kHz、48kHz、96kHz。

ファイナライズ(Finalization) ディスクをCDプレーヤーで再生をする為に必要なTOCを書くことです。

レッドブック(Red Book) オーディオCDのための規格書です。

ワードクロック デジタルオーディオシステムに接続されているすべての機器のデータ処理回路を同期させるクロック信号。ワードクロックの周波数はサンプリングレートと等しい。

## 索引

<b>A</b>			
A-Bボタン	10		
A-Bリピート再生	24		
AC IN端子	11		
AES	46		
AES/EBU	25		
接続	16		
AES/EBU IN端子	12		
AES/EBU OUT端子	12		
AES/EBUインジケータ	8		
AES/EBU出力のクロック選択	46		
ANALOG	25		
接続	15		
ANALOG IN端子	11		
ANALOG IN入力感度スイッチ	11		
ANALOG OUT端子	11		
ANALOGインジケータ	8		
AUTO	26		
<b>B</b>			
BLANKメッセージ	18		
<b>C</b>			
CD-R	58		
インジケータ	18		
ファイナライズ	44		
ロゴマーク	4		
CD-RW	58		
インジケータ	18		
消去	45		
ファイナライズ	44		
ロゴマーク	4		
CD-RWインジケータ	18		
CD-Rインジケータ	18		
CDR1000			
仕様	55		
寸法図	57		
電源の入れ方	16		
ブロック図	14		
フロントパネル	6		
リアパネル	11		
CDインジケータ	18		
CHECK INPUTメッセージ	18		
CLK SEL	46		
CLOSEメッセージ	18		
COAX	25, 46		
接続	15		
COAXIAL IN端子	12		
COAXIAL OUT端子	12		
COAXインジケータ	8		
COPYインジケータ	8		
<b>D</b>			
D-OUT	48		
<b>E</b>			
ELAPSEインジケータ	8		
ERASEボタン	6		
ERRORメッセージ	18		
<b>F</b>			
FADE IN	38		
FADE OUT	39		
FAST	20		
FINALIZEボタン	6		
FOOT SW端子	7		
<b>I</b>			
INDEX INCボタン	10		
INDEXインジケータ	8		
INDEX( <<, >> )ボタン	7		
INPUT SELECTボタン	9		
INT	46		
<b>L</b>			
LOCKインジケータ	8		
<b>N</b>			
NO CDメッセージ	18		
NO DISCメッセージ	18		
<b>O</b>			
ONCE	28		
OPC	4		
OPC OVERメッセージ	18		
OPCメッセージ	18		
OPEN/CLOSEボタン	6		
OPENメッセージ	18		
OUT OF RANGEメッセージ	18		
<b>P</b>			
PARALLEL端子	12, 51		
PAUSEボタン	7		
PEAK HOLDインジケータ	9		
PEAK HOLDボタン	9		
PERMIT	28		
PHONES LEVELツマミ	7		
PHONES端子	7		
PLAYインジケータ	7		
PLAYボタン	7		
PMA	4		
POWERスイッチ	6		
PREV, NEXT( <<, >> )ボタン	7		
PROTECT	28		
<b>R</b>			
READINGメッセージ	18		
REC LEVELツマミ	6		
REC MUTEインジケータ	10		
REC MUTEボタン	10		
RECインジケータ	7, 9		
RECボタン	7		
REMAINインジケータ	8		
REMOTE	50		
REPEATインジケータ	9		
REPEATボタン	10		
ROMメッセージ	18		
<b>S</b>			
SEARCH( <<, >> )ボタン	7		
SELF-CHECKメッセージ	18		
SLOW	20		
SRC	26		
SRCインジケータ	8		
STOPボタン	7		
SYNC REQ(同期録音)ボタン	10		
SYNC-REC 1	41		
SYNC-REC ALL	42		
SYNC-REQ(同期録音)インジケータ	9		
<b>T</b>			
TIME DISPLAYボタン	9		
TOTALインジケータ	8		
TRACK INC dB	34		
TRACK INCボタン	10		
TRACKインジケータ	8		
<b>U</b>			
UNRECORDABLEメッセージ	18		
UTILITYインジケータ	10		
UTILITYボタン	10		
UV22	28		
UV22インジケータ	10		
UV22ボタン	10		
<b>W</b>			
WAITメッセージ	18		
WORD	46		
WORD CLOCK IN端子	12		

## イ

一時停止	21
イレース機能	45
インデックス選択	23
インプットディレイ	27

## エ

エラーメッセージ	54
エンファシス	5

## オ

オートファイナライズ機能	41, 43
オートレックスタート/オートトラックインクリメント	34
AUTOインジケータ	10
AUTOボタン	10
オールトラック同期録音	40, 42
オールリピート再生	24

## コ

故障かな?と思ったら	52
コピービットの設定	28

## サ

サーチ	23
再生	21
ボタンの働き	22
リピート再生	24
サンプリングレートコンバーター	26

## ス

数字ボタン	13, 23
スキップID	40
スタートID	40

## セ

接続例	15
-----	----

## タ

タイムディスプレイ	8, 19
-----------	-------

## テ

停止	21
ディスク	4
ディスクインジケータ	8
ディスクトレイ	6
ディスクの消去	45
ディスクの挿入と取り出し	18
ディスプレイ	6
デジタルアウト端子出力	48

## ト

同期録音	40
特長	2
トラック選択	23
トラックリピート再生	24

## ニ

入力ソースの選択	25
----------	----

## ヒ

ピークホールド	20
---------	----

## フ

ファイナライズ	5
ファンクションボタン	6
フェードアウトの設定	39
フェードインの設定	38
フットスイッチ	49
プレイ(▶)インジケータ	8

## ホ

ポーズ(II)インジケータ	9
---------------	---

## マ

マニュアル操作でインデックス番号	33
マニュアル操作でトラック番号	32

## メ

メータ	20
メッセージエリア	9

## モ

モニター	20
------	----

## ユ

輸送用保護パッド	1, 17
----------	-------

## ヨ

予備知識	4
------	---

## リ

リモートコントローラ	13, 19
リモートコントローラオフ	50
リモートコントロールセンサー	6

## レ

冷却ファン	11
レックミュート	36

レックミュート待機モード	36
レベルメータ	9

## ロ

録音	25
オートレックスタート/オートトラックインクリメント	34
オールトラック同期録音	42
同期録音	40
フェードアウトの設定	39
フェードインの設定	38
マニュアル操作でインデックス番号	33
マニュアル操作でトラック番号	32
ミュートを挿入	36
ワントラック同期録音	41
録音待機モード	29
ロゴマーク	4

## ワ

ワードクロック	46
ワントラック同期録音	40, 41

# サービスについて

## 保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめの上、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要となる場合は、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

## 損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

## 調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理に際しては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのもかも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいし、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

## お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品に関するご質問・ご相談は下記のお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問い合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へおよせください。

## お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-6663 (電話受付 = 祝祭日を除く月～金 / 11:00～19:00)

E-mail: painfo@post.yamaha.co.jp

## EM営業統括部(営業窓口)

### PAグループ

PA東京	☎ 03-5488-5480	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
PA北海道	☎ 011-512-6113	〒064-0810	札幌市中央区南十条西1-1-50
PA仙台	☎ 022-222-6214	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10
PA大阪	☎ 06-6252-5405	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9
PA名古屋	☎ 052-232-5744	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28
PA九州	☎ 092-412-5556	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4

企画推進室(プロオーディオ) ☎ 03-5488-5472 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

### PA・DMI事業部

PE営業部PA国内推進室 ☎ 053-460-2455 〒430-8650 浜松市中沢町10-1

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスステーション	☎ 011-512-6108	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台サービスステーション	☎ 022-236-0249	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F
首都圏サービスセンター	☎ 03-5762-2121	〒143-0006	東京都大田区平和島2-1-1 京浜トラックターミナル14号棟A-5F
浜松サービスステーション	☎ 053-465-6711	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
大阪サービスセンター	☎ 06-6877-5262	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスステーション	☎ 087-822-3045	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
広島サービスステーション	☎ 082-874-3787	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14
九州サービスステーション	☎ 092-472-2134	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社/CSセンター	☎ 053-465-1158	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階

所在地・電話番号などは変更されることがあります。  
2001年10月現在

